

土地分類基本調査簿（国土調査）第84号

土 じ ょ う 各 論

郡 山

5 万 分 の 1

国 土 調 査

経 済 企 画 庁

1 9 6 8

# 目 次

I 土 壤 細 説 .....	1
I. 1. 山地・丘陵地地域の土壌 .....	1
I. 1. 1 概 説 .....	1
I. 1. 2 褐色森林土壌 .....	2
I. 1. 3 褐色森林土壌（黄褐色型） .....	10
I. 1. 4 褐色森林土壌（灰黄型） .....	20
I. 1. 5 未熟褐色森林土壌（黄褐色型） .....	23
I. 1. 6 未熟褐色森林土壌（暗褐色型） .....	25
I. 1. 7 赤黄色土壌 .....	27
I. 1. 8 赤 色 土 壌 .....	29
I. 2. 台地，低地地域の土壌 .....	33
I. 2. 1 概 説 .....	33
I. 2. 2 黄褐色土壌 .....	39
I. 2. 3 黒 色 土 壌 .....	44
I. 2. 4 灰褐色土壌 .....	46
I. 2. 5 灰 色 土 壌 .....	50
I. 2. 6 グライ土壌 .....	55
I. 2. 7 強グライ土壌 .....	57
II 土 壤 分 類 と 土 地 利 用 .....	61
II. 1. 山地・丘陵地地域の土地利用 .....	61
II. 2. 台地・低地地域の土地利用 .....	64
III 資 料 .....	65
Summary .....	67

1 : 50,000

土じよう各論

## 郡 山

農林省林業試験場	農林技官	山	谷	孝	一
"	"	西	田	豊	昭
"	"	仙	石	鉄	也
"	"	柳	谷	清	子
農林省農業技術研究所	"	原	田	竹	治
"	"	足	立	嗣	雄
"	"	足	立	美	智子

## I. 土 壤 細 説

## I. 1. 山地, 丘陵地地域の土壤

## I. 1. 1 概 説

阿武隈川以西の郡山盆地を除く地域の大部分は山地・丘陵地地域に包含される。図幅北西隅の熱海を中心とする山地地形および阿武隈山地南半の国見山一鶴石山付近の山地性地形のほかは丘陵地地形に属している。

阿武隈山地は主として花崗岩類によつて占められ、一部に変成岩類および石英安山岩質凝灰岩があらわれている。同山地西縁には洪積層が分布し、台地地形を形成している。また、図幅西側には新第三系砂岩、凝灰岩および安山岩類が分布し、北側には石英粗面岩の大きい露出が見られる。第三紀層は高度を減ずるにしたがつて洪積層に推移している。

山地地形は海拔高約 400m<sup>±</sup>以上の地域を占め、平均傾斜約20°以上、平均起伏量約

200m以上の比較的急峻な地貌を呈し、丘陵地地形は海拔高200～400m間を占め、比較的なだらかな地貌を呈している。阿武隈山地は海拔高200～400m間を占める丘陵性地形で、山地西縁の洪積層でおおわれている地域以外は浸食終期の老年期に属し、深層風化をうけた花崗岩体上部はかなり深くまで浸食、剝離されている。山地、丘陵地の土壤には火山灰の混入がほとんどなく、洪積層に凝灰質物の混入を見るのがおもなものであり、それぞれ基岩風化物が土壤の母材を構成している。

調査地域の気候は、大体、冬期乾燥、夏期湿潤の表日本型に属している。天然生2次林にはアカマツ林やコナラ、クリ林が多く、生育状態は比較的良好である。人工林化は一般におくれており、熱海付近や国見山付近にまとまったスギ人工林がみられるだけである。阿武隈山地の峯部や緩斜地には畑地がかなり多く、タバコ、その他普通作物を栽培しているが、最近桑畑の造成がすすめられている。

山地・丘陵地地域の土壤を層断面の形態、母材、堆積様式などによつて分類すると、褐色森林土、同（黄褐色型）、同（灰黄型）、未熟褐色森林土（黄褐色型）、同（暗褐色型）、赤黄色土壤、赤色土壤の7土壤群に大別され、その下部は24土壤統に分類される（第1表）。

### I. 1. 2 褐色森林土壤

褐色森林土には新第三系砂岩、安山岩類を母材とする赤坂1統、同2統と新第三系緑色凝灰岩、砂岩および変朽安山岩を母材とする熱海1統、同2統とがある。この土壤の分布地域は山地地形を呈し、とくに熱海1統、同2統の分布地域は図幅内でもつとも高位置にあり、しかも急峻である。したがつて、土壤は母材よりも地形の影響を強くうけている。

#### 赤坂1統（As—1）

図幅西縁の山地性地形に分布し、峯部や凸斜面を占め、表層はかなり浸食をうけている。新第三系砂岩を母材とし、腐植土層の発達がわるく、砂質で、粒状および堅果状構造がよく発達している。比較的酸性が強く、石灰飽和度は低い。磷酸吸収係数は小さく、火山灰の影響は認められない。

#### 代表断面

地点番号

No. 27

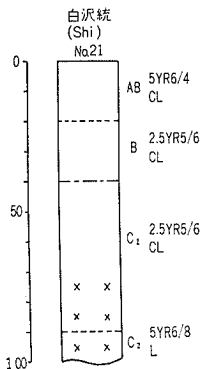
第1表 山地、丘陵地地域の土壌分類表

土 壤 群	土 壤 統	母 材	地 形	土 細 分	層 断 面 の 特 徴
褐色森林土壌	赤坂1統	第三紀層砂岩 安山岩	狭少峯部	BB	AB-B-C, 灰褐—明橙褐 (7.5YR), 砂質
	赤坂2統	〃 〃	斜面凹部	BD 崩積	A-AB-A'-AB', 黒褐—暗褐 (10YR), 壤土質
	熱海1統	第三紀層綠色凝灰岩, 砂岩, 菱朽安山岩	狭少峯部	BB 礫土	AB-BC-C, 灰黃褐—黃褐 (10YR), 壤土質
	熱海2統	〃 〃	斜面下部 斜面下部	BD-BE 匍行, 崩積	A-BC-C, 暗褐—褐—灰黃褐 (10YR), 壤土質
褐色森林土壌 (黃褐色)	三春1統	深層風化花崗岩類	鈍頂峯部	BD(d)-BB	A-AB-B-C, 褐—黃褐—明黃褐, (7.5YR-10YR), 壤土質, AB-C, 灰褐—明褐 (7.5YR) 砂質
	三春2統	〃	斜面下部 〃 凹部	BD(d)-BB 匍行, 崩積	AB-B-BC, 暗褐—褐—明褐 (7.5YR), 壤土質
	三春3統	〃	平坦峯部	BD(d)- BD(d)	A-AB-BC-C, 暗褐—黒褐—灰黃褐 (7.5YR-10YR), 壤土質
褐色森林	鶴石1統	結晶片岩	鈍頂峯部	BB-BD(d)	AB-B-C, 暗褐—灰褐 (7.5YR) 砂質
	鶴石2統	〃	斜面下部 〃 凹部	BD 崩積	A-B-C, 黒褐—暗褐 (7.5YR) 壤土質
金沢統	Ka	石英安山岩質凝灰岩	鈍頂峯部	BD(d)	AB-B-C, 褐—灰褐—明橙褐 (7.5YR) 壤土質

土	壤	河内1統	Ko-1	第三紀層砂岩	狹小峯部	BD(d)	A-AB-C, 灰黃褐—黃褐—明黃褐(10YR), 壤土質.	
		河内2統	Ko-2	〃	斜面凹部	BD 崩積	A-B-C, 暗褐—灰黃橙—明黃褐(10YR), 壤質.	
		小川1統	Og-1	洪積層(花崗岩類)	平坦凸部	BD(d)	AB-BC-C, 褐—明褐—明橙褐(7.5XR), 砂質.	
		小川2統	Og-2	〃	凹部平坦	BD~Bld	A-A', 暗褐(7.5YR), 壤土質	
		山寺1統	Yd-1	第三紀層凝灰岩	鈍頂峯部	BD(d)BC	AB-B-Cg-C, 灰黃褐—灰黃橙—淡黃褐灰(10YR) 微砂質.	
		山寺2統	Yd-2	〃	斜面凹部	BD 崩積	A-AB-BC, 黑褐—暗褐—黃褐灰(10YR) 微砂質.	
		日和田統	Hi	洪積層(粘土・シルト)	凸部平坦	BD(d)	A-B-Cg, 暗褐—褐—灰黃褐(10YR) 微砂質.	
		未熟褐色森林土壤	矢沢1統	Ya-1	石英粗面岩	峯急斜地	BD(d)	A-BC-C, 暗褐—明黃褐—黃橙(10YR) 壤質.
			矢沢2統	Ya-2	〃	斜面下部	BD(d) 崩積礫土	AB-C, 灰黃橙—明褐—黃褐(10YR), 壤土質.
			高倉1統	Ta-1	角閃片岩	鈍頂峯部	BD(d)~BC	AB-B-BC, 暗褐—黃褐灰, (10YR) 壤質.
			高倉2統	Ta-2	〃	斜面凹部	BD 崩積	A-BC, 暗褐(10YR) 壤土質
		赤黄色土	大谷統	Oy	洪積層(粘土)	丘陵平坦	RYD(d)	A-B-BC, 褐—赤褐(7.5YR-5YR), 壤質.
片平統	Kt		第三紀層, 砂岩	丘陵平坦	RYD(d)	A-B-BC-C, 褐—橙—灰橙(7.5YR-5YR) 壤土質.		
赤色土	白沢統	Shi	赤色風化殼(花崗岩類, 結晶片岩)	丘陵峯部	RD(d)	AB-B-C, 灰橙—明赤褐—橙(5YR-5.5YR), 壤質.		

(註) 土壤細分の記号は国有林土壤調査法に準じた。

赤色土壤

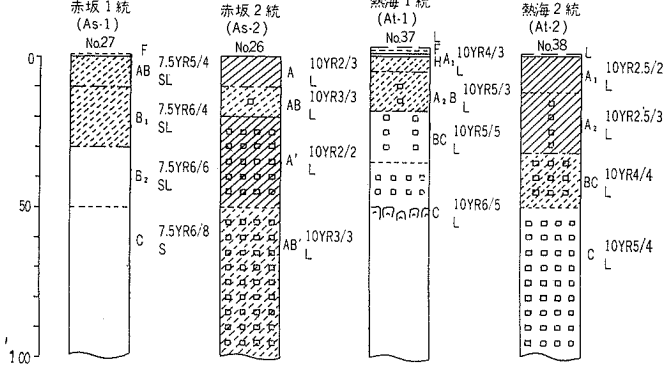


(凡 例)

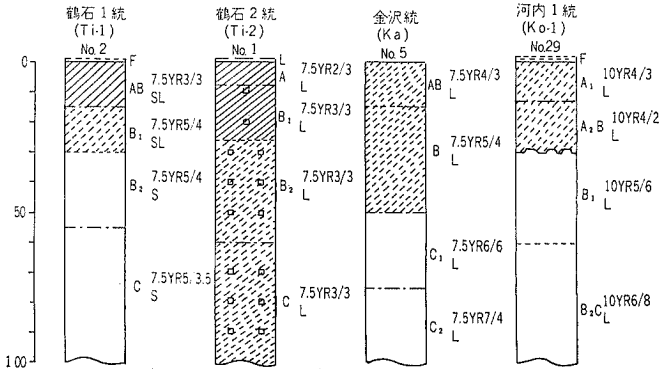
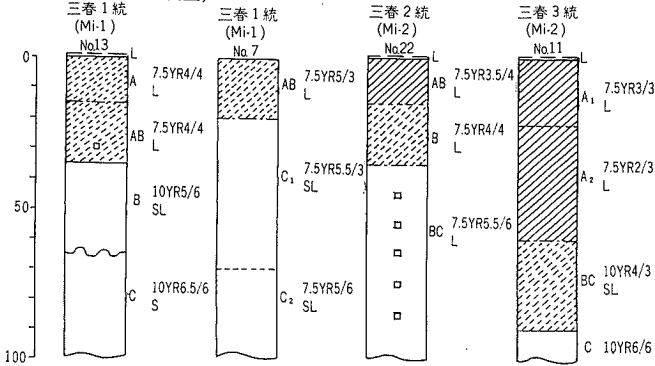
- |      |            |
|------|------------|
| 腐植   | 斑紋         |
| 富む   | 顕る富む       |
| 含む   | 富む         |
| L層   | 含む         |
| F層   |            |
| H層   | 膜状斑<br>雲状斑 |
| 礫、砂  | 基岩、盤層      |
| 石礫土  | 基岩         |
| 顕る富む | 鉄盤<br>鉄条   |
| 富む   | 層界         |
| 含む   | 明瞭         |
| 砂層   | 判然         |
| 半角礫  | 渐变         |
| 角礫   | 平坦         |
|      | 不規則        |

山地、丘陵地域の土壌断面図

褐色森林土壌

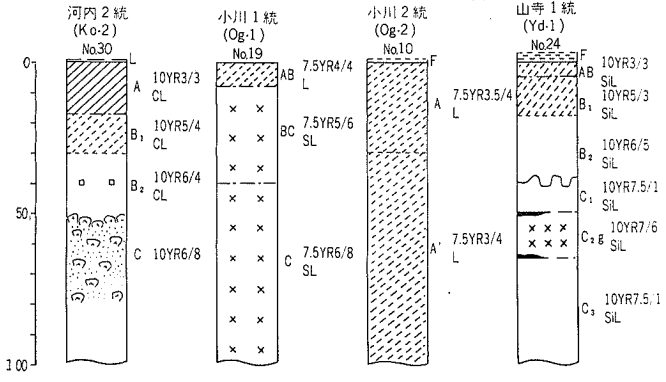


褐色森林土壌(黄褐色型)

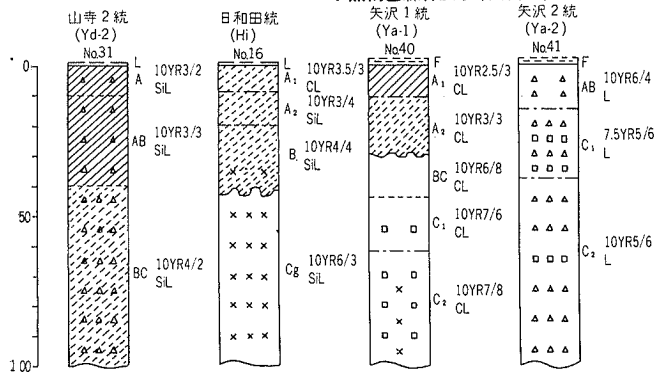




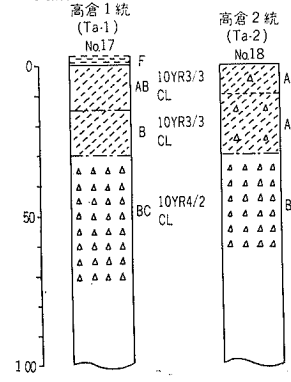
褐色森林土壤 (灰黄型)



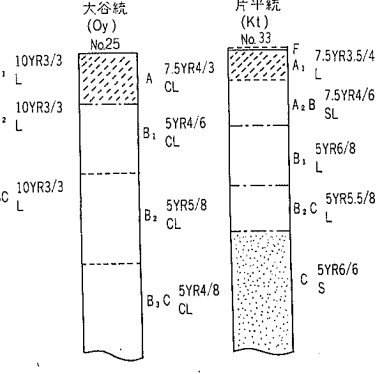
未熟褐色森林土壤 (黄褐型)



未熟褐色森林土壤 (暗褐型)



赤黄色土壤



土壤細分 BB 型  
 所在地 郡山市逢瀬町多田野字赤坂  
 地形, 地質 第三紀層山地の狭小峯部  
 海拔高 380m  
 母材, 堆積様式, 砂岩, 残積  
 土地利用, 植生, アカマツ天然生林

## 断面形態

F : 1 cm, アカマツ腐葉。

AB : 0—10cm, 灰褐 (7.5YR5/4). 砂質壤土, 軟, 粒状ないし堅果状構造, 乾。

B<sub>1</sub> : 10—30cm, 灰橙 (7.5YR6/4), 砂質壤土, 軟, 堅果状構造, 乾。

B<sub>2</sub> : 30—50cm, 明橙褐 (7.5YR6/6), 砂質壤土, 堅, 弱い堅果状構造, 乾。

C : >50cm, 明橙褐 (7.5YR6/8). 砂土, 堅, 砂岩風化層, 雲母多。

アカマツ林やコナラ, クリ林が多く, その生育状態は比較的良好である。広葉樹の粗悪林はなるべくアカマツ林に樹種改良することが望ましい。

## 赤坂 2 統 (As—2)

赤坂 1 統分布地域の凹地形にあらわれる崩積土で, 新第三系砂岩および安山岩類を母材としている。腐植は深く浸透し, 酸性は比較的弱く, 燐酸吸収係数は 1,000 前後である。赤坂 1 統に比較して母材の構成は複雑であり, 理化学性は良好である。

## 代表断面

地点番号 No. 26  
 土壤細分 BD 崩積  
 所在地 郡山市逢瀬町多田野字赤坂  
 地形地質 第三紀層山地の山脚緩斜地  
 海拔高 360m  
 傾斜, 方向 13°, N15°E  
 母材, 堆積様式, 砂岩, 安山岩, 崩積  
 土地利用, 植生, スギ人工林

## 断面形態

A : 0—10cm, 黒褐 (10YR%), 壤土, 軟, 潤, 団粒状構造。

AB : 10—20cm, 暗褐 (10YR3/3), 壤土, 軟, 潤, 弱い堅果状構造, 安山岩細角礫混入。

A' : 20—50cm, 黒褐 (10YR2/2), 壤土, 軟, 潤, 安山岩角礫土。

AB' : >50cm, 暗褐 (10YR3/3), 壤土, 軟, 潤, 安山岩角礫土。

地床には好湿性植物の分布もみられ, スギ造林地は良好な生育を示している。この土壌には積極的にスギを導入していきたい。

#### 熱海1統 (At-1)

図幅北西隅の急峻地に分布し, 峯部や斜面上部を占め, 新第三系緑色凝灰岩, 砂岩および変朽安山岩などを母材としている。この地域は起伏, 傾斜ともに大きく, 壮年期の地貌を呈し, 土壌は母材よりも地形の影響を強くうけている。表層浸食によつて腐植土層の発達には貧弱であり, 風化土層が浅く, 下層は礫土となつている。乾性で, 粒状構造がよく発達し, 酸性は比較的強く, 塩基類に乏しい。磷酸吸収係数は小さい方である。化学性は赤坂1統に似ているが, 乾性, 礫質である。

#### 代表断面

地点番号	No. 37
土壌細分	BB 礫土
所在地	郡山市熱海町安子ヶ島字真弓山
地形, 地質	第三紀層山地の狭小峯部
海拔高	500m

母材, 堆積様式, 凝灰岩, 残積

土地利用, 植生, アカマツ天然生林

#### 断面形態

L : 1cm, アカマツ落葉。

F : 1cm, アカマツ腐葉。

H : 1cm, 黒 (7.5YR2/1), 腐植層。

A<sub>1</sub> : 0—5cm, 灰黄褐 (10YR4/3), 壤土, 粗, 細粒状構造, 菌糸多。

A<sub>2</sub>B : 5—18cm, 灰黄褐 (10YR5/3), 壤土, 堅, 粒状~堅果状構造, 緑色凝灰岩の風化礫混入。

BB : 18—35cm, 黄褐 (10YR5/5), 壤土, 堅, 弱い堅果状構造, 緑色凝灰岩礫多。

C : >35cm, 明黄褐 (10YR<sup>6/5</sup>), 固結, 綠色凝灰岩角礫土。

アカマツ林やアカマツ, コナラ林が多く, 地床にはツツジ類やその他の乾性灌木が優勢であるが, 天然生林の生育状態はそれほど悪くない。土壤条件からみて人工植栽は適当ではなく, 現存樹種の更新が適当である。

#### 熱海 2 統 (At-2)

熱海 1 統分布地域の急斜地下部にあらわれ, 熱海 1 統と同様に種々の母材からなる。腐植の浸透は良好で, 湿潤, 膨軟であり, 表層には団粒状構造がよく発達している。酸性が弱く, 磷酸吸収係数は小さく, 良好な理化学性を呈している。

#### 代表断面

地点番号	No. 38
土壤細分	BD—BE, 崩積
所在地	郡山市熱海町安子ケ島字真弓山
地形, 地質	第三紀層山地の斜面下部
海拔高	380m
傾斜, 方向	32°, S50°E
母材, 堆積様式, 凝灰岩, 崩積	
土地利用, 植生, コナラを主とする広葉樹林	

#### 断面形態

L : 2cm, 広葉樹, ササ落葉。

A<sub>1</sub> : 0—12cm, 黒褐 (10YR2.5/2), 壤土, 粗, 潤, 高度に発達した団粒状構造。

A<sub>2</sub> : 12—32cm, 暗褐 (10YR3.5/3), 壤土, 軟, 潤, 団粒状構造。

BC : 32—50cm, 褐 (10YR4/4), 壤土, 堅, 潤, 凝灰岩風化礫多。

C : >50cm, 灰黄褐 (10YR5/4), 壤土, 堅, 浮石質凝灰岩風化礫土。

コナラを主とする良好な広葉樹の天然生林が多く, またスギ造林地の生育は旺盛である。急斜地が多いために, 土地保全には注意しなければならないが, 条令がゆるすかぎりスギの造林地に樹種更改していきたい。

### I. 1. 3 褐色森林土壤 (黄褐色型)

この土壤はB層における腐植の汚染が少なく, 黄褐—灰黄褐色 (7.5YR—10YR)

の色調を呈し、堆積状態は一般に密である。阿武隈山地に広く分布する深層風化花崗岩に由来する土壌はほとんどこれに属しており、そのほか、片岩類、凝灰岩、砂岩、花崗岩質洪積層を母材として生成している。このように、この土壌は種々の母材に生成しているが、このような色調を呈することについては母材だけではなく、往時からの過度の森林破壊など、生成様式についても考えなくてはならない。形態的には褐色森林土と後述の赤黄色土壌の中間的位置を占めている。なだらかな起伏からなる丘陵地形が大部分である。

### 三春1統 (Mi-1)

深層風化をうけた花崗岩および花崗閃緑岩を母材とする残積土で、丘陵地の鈍頂峯部にあらわれている。阿武隈山地一帯にあらわれ、国見山周辺では山地性地貌を呈し、峯部に狭く分布しているが、その他の丘陵地では峯部から凹斜面にかけて広く分布している。一般に砂質で、堆積状態は密であり、腐植の汚染が少なく、弱乾性で、表層には粒ないし堅果状構造が発達している。一次鉱物には痕跡程状の火山ガラスが存在しているが、有色鉱物はほとんどなく、雲母は下層に漸増し、花崗岩残積土の特徴がよくあらわれている。比較的酸性で、塩基類が少なく、磷酸吸収係数は小さいが、深層風化層には比較的塩基類が多く含有されている。

#### 代表断面

地点番号	No. 13
土壌細分	BD(d)
所在地	田村郡三春町大字柴原字荻久保
地形、地質	花崗岩類、丘陵地の峯部平坦
海拔高	360m
母材、堆積様式、深層風化花崗岩、残積	
土地利用、植生、クリ、コナラ天然生林	

#### 断面形態

L : 1cm, スギ落葉

A : 0—15cm, 褐 (7.5YR4/4), 壤土, 軟, 乾, 粒状構造, 細根多。

AB : 15—35cm, 褐 (7.5YR4/4), 壤土, 堅, 潤, 弱い堅果状構造, 下部に花崗岩礫  
介在。

B : 35—65cm, 黄褐 (10YR5/6), 砂質壤土, 固結, マンガン斑あり。

C : >65cm, 明黄褐 (10YR6.5/5), 花崗岩深層風化層。

#### 代表断面

地点番号 No. 7  
 土壤細分 BD(d) 未熟  
 所在地 郡山市中田町上石字逆木  
 地形, 地質 花崗岩類丘陵地の峯部平坦  
 海拔高 400m  
 母材, 堆積様式, 深層風化花崗岩, 残積  
 土地利用, 植生, アカマツ天然生林

#### 断面形態

AB : 灰褐 (7.5YR5/3), 壤土, 軟, 乾, 堅果状構造。

C<sub>1</sub> : 灰褐 (7.5YR5.5/3), 砂質壤土, 固結, 花崗閃緑岩深層風化層。

C<sub>2</sub> : 明褐 (7.5YR5/6), 砂質壤土, 固結, 花崗閃緑岩深層風化層。

C<sub>3</sub> : 灰橙 (7.5YR7/4), 固結, 花崗閃緑岩深層風化層, 灰白と灰黒の模様をなし, 母材の構造が保残されている。

アカマツ林やコナラ, クリ林などの天然生林が多く, 生育状態は比較的良好である。一部にスギの造林地もみられるが生育は良好ではない。普通畑として利用されているところがあり, とくに, 最近, 農業構造改善事業として桑畑および草地の造成が, 三春を中心として進められている。この土壤は深層風化をうけているために, 質的にもろく, 変蝕性が大きいから, 農地として利用する場合には土壤管理に注意する必要がある。

#### 三春2統 (Mi-2)

三春1統から分布地域内の凹斜面や山脚部にあらわれ, 深層風化をうけた花崗岩類をおもな母材としているが, 火山灰その他の異質物をわずかに混入している。腐植は比較的下層まで浸透しているが下層は明褐色で, 比較的酸性である。磷酸吸収係数は三春1統よりもいくぶん大きい。三春1統の残積土にたいして, 匍行, 崩積土の堆積様式を示しており, 国見山周辺では広く分布している。

#### 代表断面

地点番号 No. 22  
 土壌細分 BD 匍行  
 所在地 安達郡白沢村白岩字塩ノ崎  
 地形、地質 花崗岩類丘陵地の斜面下部  
 海拔高 360m  
 傾斜、方向 20° N24°W  
 母材、堆積様式、深層風化花崗岩、匍行  
 土地利用、植生、クヌギ、クリ、コナラ天然生林  
 断面形態

L : 1cm, 広葉樹落葉。

AB : 0—15cm, 暗褐 (7.5YR3.5/4), 壤土, 軟, 潤, 弱い堅果状構造。

B : 15—35cm, 褐 (7.5YR4/4), 壤土, 堅, 潤, 弱い堅果状構造。

BC : >35cm, 明褐 (7.5YR5.5/6), 壤土, 堅, 潤。

コナラ、クリ、クヌギ林が多く、その生育状態は良好である。国見山周辺、大滝根川流域には良好なスギの植栽に好適な土壌であり、農地として利用するには不利なところが多いから、この土壌にたいしては積極的にスギの人工林を造成した方が有利である。

### 三春3統 (Mi-3)

三春1統分布地域内に局部的にあらわれている平坦峯部に分布し、深層風化をうけた花崗岩を母材とする残積土である。B層は灰黄褐色であるが、暗色の腐植土層は比較的厚く黒色土の性質をおびている。暗色土層にはわずかに火山ガラスが検出されるが、三春1統と同様に雲母は下層に漸増し、花崗岩残積土の特徴をよく示している。堆積状態は一般に密で、表層には弱い堅果状構造が発達している。三春1統よりも地形的に安定し、浸食の程度も低い。

### 代表断面

地点番号 No. 11  
 土壌細分 BD(d)—Bld(d)  
 所在地 田村郡三春町大字県山字宮ノ下  
 地形、地質 花崗岩類丘陵地の平坦峯部

海拔高 420m

母材, 堆積様式, 深層風化花崗岩, 残積

土地利用, 植生, クリを主とする広葉樹林

断面形態

L : 1cm, クリその他落葉。

A : 0—22cm, 暗褐 (7.5YR3/3), 壤土, 軟, 潤, 弱い堅果状構造。

A<sub>2</sub> : 22—60cm, 黒褐 (7.5YR2/3), 壤土, 堅, 潤, フレあり。

BC : 60—90cm, 灰黄褐 (10YR4/3), 砂質壤土, 固結, 潤。

B : >90cm, 明黄褐 (10YR6/6), 砂質壤土, 固結, この層の上に鉄の沈澱とみられる灰褐 (7.5YR5/4), 部が層状に介在している。

コナラ, クリなどの天然生林を主として成り, スギを植栽した場合には三春1統よりも良好な生育を示している。

鶴石1統 (Ti-1)

図幅東南部の鶴石山付近および阿武隈川沿いの右岸北部大網付近に分布している。鶴石山付近は比較的急峻で, 山地性の地貌を呈しているが, 大網付近は丘陵地からなり, この土壤はこのような地形の峯部や凸斜面下にあらわれている。結晶片岩をおもな母材とし, 腐植土層の発達は貧弱である。砂質, 堅密で酸性は弱く, 置換性塩基に乏しく, 塩基置換容量および磷酸吸収係数は小さい。表層には粒状および堅果状構造が発達した乾性土壤である。

代表断面

地点番号 No. 2

土壤細分 BB—BD(d)

所在地 郡山市中田町海老根字鶴石

地形, 地質 変成岩類山地性の斜面上部

海拔高 450m

傾斜, 方向 20° S20°W

母材, 堆積様式, 結晶片岩, 残積

土地利用, 植生, クヌギ, コナラ天然生林

断面形態



F : 1cm, 広葉樹腐葉。

AB : 0—15cm, 暗褐 (7.5YR3/3), 砂質壤土, 軟, 乾, 粒状, 堅果状構造。

B<sub>1</sub> : 15—30cm, 灰褐 (7.5YR5/4), 砂質壤土, 軟—堅, 乾, 堅果状構造。

B<sub>2</sub> : 30—55cm, 灰褐 (7.5YR5/4), 砂土, 堅, 乾。

C : >55cm, 灰褐 (7.5YR5/3.5), 砂土, 固結。

天然生のアカマツ林やコナラ, クリ, クヌギ林によつておおわれ, 地床にもツツジ類その他の乾性植物が多い。スギの植栽には適当ではないが, アカマツの生育は比較的良好であるから, アカマツを主とする森林の造成をはかるべきである。

#### 鶴石 2 統 (Ti-2)

鶴石 1 統分布地域の斜面凹地や斜面下部にあらわれている崩積土で, 結晶片岩をおもな母材としているが, 層断面には花崗岩礫の混入もみられる。下層まで暗色を呈し, 表層には弱い固粒状および粒状構造が発達している。比較的酸性が弱く, 堆積状態は一般に密である。

#### 代表断面

地点番号 No. 1  
 土壌細分 BD 崩積。  
 所在地 郡山市中田町海老根字鶴石  
 地形, 地質 変成岩類山地性の斜面下部  
 海拔高 400m  
 母材 堆積様式, 結晶片岩, 崩積  
 土地利用, 植生, クヌギを主とする広葉樹林

#### 断面形態

L : 1cm, クヌギその他落葉。

A : 0—8cm, 黒褐 (7.5YR2/3), 壤土, 粗, 潤, 粒状および団粒状構造。

B<sub>1</sub> : 8—26cm, 暗褐 (7.5YR3/3), 壤土, 堅, 潤, 弱いワレ発達, 花崗岩細礫混入。

B<sub>2</sub> : 26—60cm, 暗褐 (7.5YR3/3), 壤土, 堅, 潤, 花崗岩角礫混入。

C : >60cm, 暗褐 (7.5YR3/3), 壤土, 堅, 潤, 花崗岩細礫わずかに混入。

クヌギ, ウワミズザクラ, クリ, コナラなどの天然生林からなり, 生育状態は比較的良好である。スギ造林地の生育は良好であるから, 積極的にスギの造林を促進した

い。

### 金沢統 (Ka)

三春一日和田以南の花崗岩分布地域に島状に露出する石英安山岩質凝灰岩を母材としている。この石英安山岩質凝灰岩は花崗岩内に併入し、上部に堆積したような構造を呈し、凸面を形成しているから、地形は平坦ないし鈍頂な峯部からできている。凝灰岩には透明な八面体状の結晶をした石英が多数混入している。腐植上層の発達はきわめて貧弱で、表層には粒状、堅果状構造が発達し、堆積状態はきわめて密である。酸性は弱く、置換性石灰は比較的多く、塩基置換容量および燐酸吸収係数はきわめて小さい。

#### 代表断面

地点番号	No. 5
土壌細分	BD(d)
所在地	郡山市田村町金沢字竹ノ内
地形、地質	石英安山岩質凝灰岩丘陵地の平坦峯部
海拔高	300m

母材、堆積様式、石英安山岩質凝灰岩、残積。

土地利用、植生、アカマツ、クヌギ混交林。

#### 断面形態

AB : 0—15cm, 褐 (7.5YR4/3), 壤土, 軟, 乾, 粒状, 堅果状構造。

B : 15—500cm, 灰褐 (7.5YR5/4), 壤土, 堅, 乾, 堅果状構造。

C<sub>1</sub> : 50—75cm, 明橙褐 (7.5YR6/6), 壤土, 固結。

C<sub>2</sub> : >75cm, 灰橙 (7.5YR7/4), 固結, 石英安山岩質凝灰岩風化層。

天然生のアカマツ林やクヌギ、コナラ林が多く、生育状態は良好ではない。土壌の理化学性がわるいからスギの造林には不適當であり、アカマツ林かコナラを主とする広葉樹林を育成する方が有利である。

### 河内1統 (Ko—1)

図幅西部の丘陵地に団状に分布し、新第三系砂岩を母材としている。鈍頂な丘陵峯部にあらわれる残積土で、腐植上層の発達は貧弱であり、壤土質で、表層には粒状ないし堅果状構造が発達している。堆積状態は密で、酸性は強いが、塩基類は比較的

く、塩基置換容量、磷酸吸収係数はそれほど低くない。

代表断面

地点番号	No. 29
土壌細分	BD(d)
所在地	郡山市逢瀬町河内字地引。
地形、地質	第三紀層丘陵地の狭小峯部
海拔高	520m
傾斜、方向	12° S38°E
母材、堆積様式	砂岩、残積
土地利生、植生、アカマツ天然生林	

断面形態

- F : 1cm, アカマツ, 広腐葉。  
 A<sub>2</sub> : 0—13cm, 灰黄褐 (10YR4/3), 壤土, 粗, 粒状および堅果状構造。  
 A<sub>2</sub>B : 13—30cm, 黄褐灰 (10YR4/2), 壤土, 軟—堅, 潤, 堅果状構造。  
 B<sub>1</sub> : 30—60cm, 黄褐 (10YR5/6), 壤土, 堅, 潤。  
 B<sub>2</sub>C : >60cm, 明黄褐 (10YR6/8), 壤土, 堅, 潤, 粘性あり。

アカマツ, コナラなどの天然生林からなり, 林下にはツツジ類を主とする乾性灌木が多い, アカマツの生育は中庸であるが, 土壌的にみてスギの生育には不適當であるから, アカマツ林かコナラを主とする広葉樹林の育成をはかるのが適當である。

河内 2 統 (Ko—2)

河内 1 統分布地域の斜面下部や凹部を占め, 砂岩をおもな母材とする崩積土で, 下層は礫土を形成している。腐植土層の発達はあまり良好ではない。表層には弱度の団粒状構造が発達し, 埴質壤土で, 堆積状態はやはり密である。酸性は河内 1 統よりもかなり弱く, 化学性は比較的的良好である。

代表断面

地点番号	No. 30
土壌細分	BD 崩積
所在地	郡山市逢瀬町河内字地引
地形、地質	第三紀層丘陵地の斜面凹部

海拔高 450m  
 傾斜, 方向 27°E  
 母材, 堆積様式, 砂岩, 崩積  
 土地利用, 植生, スギ人工林  
 断面形態

L : 1cm, スギ, その他落葉。

A : 0—17cm, 暗褐 (10YR3/3), 埴質壤土, 軟, 潤, 弱い団粒構造

B<sub>1</sub> : 17—30cm, 灰黄褐 (10YR5/4), 埴質壤土, 堅, 潤

B<sub>2</sub> : 30—50cm, 灰黄橙 (10YR6/4), 埴質壤土, 堅, 潤, 砂岩風化礫介在。

C : >50cm, 明黄褐 (10YR8/6), 砂岩の崩積礫土。

コナラ, クリなどの広葉樹林からなり, その生育状態は良好である。地床には適潤性植物が多く, スギ造林地も良好な生育を示している。積極的にスギ造林地の拡大をはかることが望ましい。

#### 小川1統 (Og—1)

日和田以南の阿武隈川沿洪積台地に分布し, 台地平坦面を占めている。数層の層理からなる洪積層で, 土壌母材を構成している部分は主として花崗岩質堆積物からなる。

腐植土層の発達は貧弱で, 堆積状態は密である。全層に雲母がきわめて多く, 砂質で, 明色を呈し, 下層にはマンガン斑が多い。酸性は弱く, 比較的塩基類に富み, 燐酸吸収係数は小さい。このような化学性は花崗岩母材の三春1統下層によく似ている。

#### 代表断面

地点番号 No. 19  
 土壌細分 BD(d)  
 所在地 郡山市日和田町八丁目字向市坪  
 地形, 地質 洪積層台地の凸部平坦地  
 海拔高 260m  
 母材, 堆積様式 花崗岩質堆積物, 残積  
 土地利用, 植生, 桑畑

## 断面形態

AB : 0—8cm, 褐 (7.5YR4/4), 壤土, 軟—堅, 潤, 堅果状構造, 雲母多。

BC : 8—40cm, 明褐 (7.5YR5/6), 砂質壤土, 堅, 雲母多, マンガン斑多。

C : >40cm, 明橙褐 (7.5YR6/8), 砂質壤土, 固結, 雲母多, マンガン大型斑多。

この土壌は桑畑, 普通畑などに利用され, また森林ではアカマツ天然生林が多い。農業立地としての条件がよく, 畑作に適している。森林として利用する場合には, アカマツ林の造成が適当である。

## 小川2統 (Og—2)

小川1統分布地域内に局部的に分布する低凹地にあらわれている。洪積台地は地形が単純であるために, この土壌の分布は湖沼周辺にかぎられている。暗色の腐植土層がきわめて深く, 層断面の形態からは2次堆積であることがわかるが, 平坦地形のために堆積状態は密である。壤土質で, 酸性は弱く, 磷酸吸収係数も小さい。

## 代表断面

地点番号	No. 10
土壌細分	BD—B1D
所在地	郡山市田村町上行合字中山田
地形, 地質	洪積層丘陵地の凹部平坦地
海拔高	220m
母材, 堆積様式	花崗岩質堆積物, 崩積
土地利用, 植生	アカマツ天然生林

## 断面形態

F : 1cm, アカマツ腐葉

A : 0—30cm, 暗褐 (7.5YR3.5/4), 壤土, 堅, 乾, ワレあり。

A' : >30cm, 暗褐 (7.5YR3/4), 壤土, 堅, 潤, A層よりも黒色が濃く, 1m付近でも, 変化していない。

アカマツ天然生林が多く, その生育状態は良好である。小川統と同様に, 畑地として利用しているところもあるが, 水湿に富み, 排水もあまり良好でないために, その成績は良好とはいわれない。この土壌にはスギの植栽も可能である。

### I. 1. 4 褐色森林土壌（灰黄型）

この土壌は新3系の軟質凝灰岩および洪積世粘土，シルトを母材としている。凝灰岩母材の山寺1統，同2統にはいくぶん急峻な地形も見られるが，一般になだらかな丘陵，台地地形からなる。凝灰岩母材の山寺1統，同2統は図幅西側の山寺，白石付近，河内北部および下伊豆島北部にまとまった分布を示し，洪積層母材の日和田統は日和田北部の洪積台地に分布している。

この土壌は微砂質で，下層は灰黄褐—灰黄橙色（10YR）のように灰色をおび，彩度よりも明度が大きい色調を呈している。堆積状態は密で，比較的重粘であり，腐植の浸透は褐色森林土（黄褐型）よりは良い傾向がある。内部排水はあまり良くないから，最下部のC層には弱い鉄斑があらわれ，停滞水の影響が認められる。この土壌の色調には灰白色の凝灰岩粘土，シルトなどの母材が関係しているかもしれないが，内部排水の不良による還元条件の影響も無視できないようである。

#### 山寺1統（Yd—1）

新第三系軟質凝灰岩を母材とし，丘陵地の峯部および凸斜面にあらわれている。河内北側の高広山周辺ではいくぶん急峻な地形も見られるが，一般に起伏のゆるやかな丘陵地で占められている。凝灰岩層は高度を減ずるにつれて洪積層におおわれるようになり，後述の大谷統に推移する。腐植土層の発達は貧弱で，下層は灰黄褐—淡黄褐色（10YR）を呈し，堆積状態は密である。表層には粒状構造は認められるが，下層は還元的で，弱い鉄斑があらわれている。比較的保水力が大きく，内部排水は良好ではない。酸性は弱く，塩基類に富み，石灰飽和度がきわめて高く，磷酸吸収係数は1,000前後である。置換性石灰含量がC層にとくに多いが，このようなことから最下層が停滞水の影響をうけていることがうかがわれる。

#### 代表断面

地点番号	No. 24
土壌細分	BD(d)—BC
所在地	郡山市三穂田町富岡字風札
地形，地質	第三紀層丘陵の鈍頂峯部
海拔高	340m

傾斜, 方向 18° S84°E

母材, 堆積様式 凝灰岩, 残積

土地利用, 植生 アカマツ新植地

#### 断面形態

F : 5cm, アカマツ腐葉, 厚く堆積

AB : 0—5cm, 暗褐 (10YR3/3), 微砂質壤土, 軟, 粒状および堅果状構造。

B<sub>1</sub> : 5—18cm, 灰黄褐 (10YR5/3), 微砂質壤土, 軟, 潤, 堅果状構造。

B<sub>2</sub> : 18—40cm, 灰黄橙 (10YR6/5), 微砂質壤土, 軟—堅, 腐植によりモザイク状に汚染。

C<sub>1</sub> : 40—50cm, 淡黄褐灰色 (10YR7.5/1) 微砂質壤土, 堅, 潤, 粘性あり。

C<sub>2g</sub> : 50—65cm, 淡黄褐灰色 (10YR7.5/1) に明黄褐 (10YR7/6) の斑紋あり, 微砂質壤土, 堅, 弱度のグライ化。

C<sub>3</sub> : >65cm, 淡黄褐灰色 (10YR7.5/1), C<sub>1</sub>層に同じ。

アカマツ林やコナラ, クリ林などの天然生林が多く, 生育状態は比較的良好である。林下にはツツジ類, マンサク, ガマズミ, ナツハゼなどの乾性灌木が優勢である。アカマツ造林地の生育も良好であるから, アカマツの植栽に適している。

#### 山寺2統 (Yd—2)

山寺1分統布地域の斜面凹部にあらわれ, 凝灰岩細角礫を多く混入する崩積土である。腐植はかなり深くまで浸透し, 黒褐—暗褐色 (10YR) を呈しているが, 下層は黄褐灰色 (10YR) である。崩積堆積であるが, 堆積状態は密であり, 表層には弱度の粒状および団粒状構造が発達している。

#### 代表断面

地点番号 No. 31

土壌細分 BD 崩積

所在地 郡山市逢瀬町河内字日室

地形, 地質 第三紀層丘陵地の斜面凹部

海拔高 360m

傾斜, 方向 18° S14°E

母材, 堆積様式 凝灰岩, 崩積

土地利用, 植生 スギ人工林

断面形態

L : 1cm, スギその他落葉

A : 0—10cm, 黒褐 (10YR3/2), 微砂質壤土, 軟—堅, 潤, 粒状および団粒状構造, 凝灰岩小礫混入。

AB : 10—40cm, 暗褐 (10YR3/3), 微砂質壤土, 堅, 潤, 弱い塊状構造, 凝灰岩小礫多。

BC > 40cm, 黄褐灰 (10YR4/2), 微砂質壤土, 固結, 凝灰岩小礫多。

この土壤にはスギの造林地が多く, 生育状態は良好である。下層植生にもニワトコ, コゴメウツギ, ミズヒキ, フキ, アカソ, ミゾシダなどの好湿性植物が多く, スギの植栽に適しているから, 積極的にスギを植栽していきたい。

日和田統 (Hi)

日和田北部の洪積台地にあらわれ, 粘土, シルトを母材としている。堆積状態はきわめて密であるが, 腐植土層の発達はわりあいに良好である。表層には弱度の粒状構造が発達しているが, 内部排水が不良でB層下部に鉄斑があらわれており, さらに最下層では弱度にグライ化している。山寺1統よりもわずかに酸性が強いが, 塩基類に富み, 石灰飽和度はきわめて大きい。磷酸吸収係数は1,000以下である。塩基類の層断面における分布も山寺1統と大体似ており, グライ化をうけた基層に蓄積している。

代表断面

地点番号	No. 16
土壤細分	BD(d)
所在地	郡山市日和田町高倉字地極田山
地形, 地質	洪積層台地の凸部平坦地
海拔高	240m
母材, 堆積様式	粘土堆積物, 残積
土地利用, 植生	アカマツ天然生林

断面形態

L : 1cm, スズダケ落葉。



A<sub>1</sub> : 0—9cm, 暗褐 (10YR3.5/3), 埴質壤土, 軟, 乾, 粒状構造。

A<sub>2</sub> : 9—20cm, 暗褐 (10YR3/4), 微砂質壤土, 固結, 乾, フレあり。

B : 20—43cm, 褐 (10YR4/4), 微砂質壤土, 固結潤, 鉄斑わずかにあり。

Cg : >43cm, 灰黄橙 (10YR6/3), に赤褐 (5YR5/8) の鉄の縞状斑, 微砂質壤土, 固結, 粘りはほとんどない。

この土壤は化学性は良好であるが, 表層は弱度に乾燥し, 堆積状態や排水状態からみてスギの植栽には適当ではない。アカマツ天然生林の生育は比較的良好である。また, 最近, 普通畑としての利用が多く, 地形的, 地利的に農地として適当しているところから, 今後も畑地としての開発が進められるであろう。

### I. 1. 5 未熟褐色森林土壤 (黄褐型)

この土壤は図幅北部の五百川以北に分布し地域一帯に露出する石英粗面岩を母材としている。この地域には凸型の急斜地が多く, 峯部には平坦—緩斜地は見られるが, 起伏量も大きく, 山地地形の地貌を呈している。石英粗面岩の風化物はあざやかな明黄褐—明黄橙色 (10YR) を呈しているが, この土壤はこのような風化母材の色調をよく残存し, 埴質ではあるが, B層の発達是不十分である。このような関係から未熟褐色森林土として取扱うことにした。この地域の凸型急斜面には岩石地あるいは地氈り崩壊地が見られ, また斜面下部や凹地には礫土が形成されている。

#### 矢沢1統 (Ya—1)

石英粗面岩分布地域の峯部や凸型急斜地にあらわれている残積土で石英粗面岩を母材としている。腐植に汚染された暗褐色のA層はかなり厚く, 粒状構造の発達もみられるが, B層の発達是不十分であり, 母材風化に由来する明黄褐 (10YR) の色調を強く反映している。埴質, 重粘で, 堆積状態は密であり, 表層には塩基類の蓄積も認められるが, 下層は酸性が強く, 塩基類に乏しい。磷酸吸収係数は一般に小さい。

#### 代表断面

地点番号	No. 40
土壤細分	BD(d) 未熟土。
所在地	郡山市熱海町玉川字小松倉。
地形, 地質	石英粗面岩山地の鈍頂峯部。

海拔高 400m

母材, 堆積様式 石英粗面岩, 残積

土地利用, 植生 コナラを主とする広葉樹林

断面形態

F : 2cm, 広葉樹腐葉。

A<sub>1</sub> : 0—11cm, 暗褐 (10YR2.5/3), 埴質壤土, 粗, 乾, 粒状構造, 菌糸混入。

A<sub>2</sub> : 11—30cm, 暗褐 (10YR3/3), 埴質壤土, 軟, 潤 局部的に弱度の粒状構造, この層内に黄褐色が介在している。重粘。

BC : 30—44cm, 明黄褐 (10YR6/8), 埴質壤土, 細礫あり, 堅, 潤, 重粘。

C<sub>1</sub> : 44—62cm, 明黄褐 (10YR7/6), 固結, 石英粗面岩風化層, 重粘。

C<sub>2</sub> : >62cm, 黄橙 (10YR7/8) 部に橙 (7.5YR7/8) 部が模様をなす, 固結, 石英粗面岩風化層。

アカマツ, コナラ, クリなどからなる天然生林が多く, 生育状態は良好ではない。土壤の理化学性が不良であるから, スギの植栽には不適當である。岩盤は法構造で, 風化土層は埴質, 重粘であるから, 急斜地では地這りが発生しやすい。地這り地の復旧はきわめて困難であるから, 森林取扱いにはとくに注意し, 土地保全につとめなければならない。

矢沢 2 統 (Ya-2)

矢沢 1 統分布地域の斜面下部にあらわれ, 石英粗面岩角礫土からなる崩積未熟土である。層位の分化は不完全で, 表層から角礫を多く混入し, 酸性は強く, 磷酸吸収係数は小さい。

代表断面

地点番号 No. 41

土壤細分 崩積礫土

所在地 郡山市熱海町玉川字金山沢

地形, 地質 石英粗面岩山地の沢沿緩斜地

海拔高 320m

傾斜, 方向 18°, S38°E

母材, 堆積様式 石英粗面岩, 崩積

土地利用, 植生 コナラを主とする広葉樹林

断面形態

F : 1cm, 広葉樹落葉, 無機質が多く, 発達不十分。

AB : 1—15cm, 灰黄橙 (10YR6/4), 壤土, 固結, 乾, 堅果状構造, 石英粗面岩角礫多。

C<sub>1</sub> : 15—38cm, 明褐 (7.5YR5/6), 壤土, 赤色ないし赤黄色風化礫多, 固結。

C<sub>2</sub> : >38cm, 黄褐 (10YR5/6), 壤土, 固結, 角礫多, 崩積礫土。

コナラを主とする広葉樹林からなり, 生育状態は中庸である。斜面下部の凹地では過湿であり, 傾斜地では礫土であるから, 人工植栽に相当したところはほとんどない。現存広葉樹林を育成するほかに方法はない。

### I. 1. 6 未熟褐色森林土壌 (暗褐色型)

この土壌は日和田北部の高倉山周辺にあらわれ, 角閃片岩を母材としている。分布地域は海拔高200—300m間を占め, 比較的起伏のゆるやかな丘陵地からなる。下層まで暗褐色 (10YR) を呈し, 堅果状構造が発達しているが, 色調によるA, B層の分化は判然としていない。一次鉱物を見ると, 黒色の角閃石がきわめて多いが, このことが暗色の色調に関係しているものと考えている。

#### 高倉1統 (Ta-1)

日和田北部の角閃片岩地域の鈍頂峯部や凸斜面にあらわれ, 角閃片岩を母材とする残積土である。堅果状構造がよく発達している層とその下部のB層とは同様の色調 (暗褐色—10YR3/3) を呈し, 腐植を除去した場合にはいずれも暗色の角閃石を主とする鉱物組成を示している。火山ガラスはわずかに検出されるが土壌の母材としては無視しても差支えない。堆積状態はきわめて密で, 埴質であり, 比較的酸性が強く, 塩基類は割合に多い。磷酸吸収係数は大体1,000以下である。

#### 代表断面

地点番号	No. 17
土壌細分	BC
所在地	郡山市日和田町高倉字館西
地形, 地質	変成岩丘陵地の鈍頂峯部

海拔高 320m  
 母材, 堆積様式 角閃片岩, 残積  
 土地利用, 植生 アカマツ天然生林

断面形態

F : 3cm, アカマツ腐葉

AB : 0—15cm, 暗褐 (10YR3/3), 埴質壤土, 堅, 乾, 発達した堅果状構造。

B : 15—30cm, 暗褐 (10YR3/3), 埴質壤土, 堅, 乾, 弱い堅果状構造

BC : >30cm (黄褐灰10YR4/2), 埴質壤土, 固結, 角閃片岩礫土。

アカマツ天然生林が多く, 生育状態は良好である。土壌の理化学性が不良であるから, スギの植栽には適当ではない。アカマツの天然更新もある程度可能であるから, アカマツの天然更新もある程度可能であるから, アカマツ林の育成につとめる必要がある。

高倉 2 統 (Ta—2)

高倉 1 統分布地域の斜面凹部にあらわれ, 角閃片岩を母材とする崩積土である。B 層の分化がほとんどなく, 全層暗褐色 (10YR3/3) を呈し, 下部の角閃片岩礫土層とその上部の壤土質, カベ状の土層とが区分される程度である。酸性は弱く, 磷酸吸収係数は小さい。

代表断面

地点番号 No. 18  
 土壤細分 BD 崩積  
 所在地 郡山市日和田町高倉字下夕岸。  
 地形, 地質 変成岩丘陵地の斜面凹部  
 海拔高 240m  
 傾斜, 方向 12°, N40W  
 母材, 堆積様式 角閃片岩, 崩積  
 土地利用, 植生 スギ人工林

断面形態

A<sub>1</sub> : 0—10cm, 暗褐 (10YR3/3), 壤土, 軟堅, 潤, 比較的カベ状構造。

A<sub>2</sub> : 10—30cm, 暗褐 (10YR3/3), 壤土, 堅, 潤, カベ状構造。

BC : >30cm, 暗褐 (10YR3/3), 壤土, 堅, 石礫土。

この土壤はスギの造林地として利用されているところが多い。理化学性が不良であるから、生育状態はそれほど良好ではないが、地利的にも有利であり、今後ともスギ造林地として利用するのが適当であろう。

### I. 1. 7 赤黄色土壤

この土壤は阿武隈川以西の丘陵地に分布し、洪積世粘土を母材とする大谷統および新第三系砂岩を母材とする片平統からなる。地形はいずれも平坦ないし緩斜で単純である。洪積世粘土は、いわゆる火山灰質ローム状を呈し、埴質であり、砂岩由来のものは砂質ないし壤土質である。腐植土層の発達はきわめて貧弱で、腐植による汚染が少なく、赤褐—橙色 (5YR) の色調を呈し、密な堆積状態を示しているのが特徴である。

#### 大谷統 (Oy)

新第三系上部層を被覆する洪積世粘土層を母材とし、山寺1統, 同2統および片平統につづいて、その低位部に分布している。一次鉱物には火山ガラスは少ないが、凝灰質物はかなり多く、また有色鉱物は少ないが、石英は比較的多い。このようなことから火山灰質の堆積物であることがわかる。磷酸吸収係数は1,500前後を示しており、調査地域の土壤としてはもつとも大きい方である。酸性は弱く、塩基類に富んでおり、石灰飽和度も高く、土壤の化学性は良好である。表層には粒状ないし堅果状構造がいくぶん発達し、比較的重粘で、堆積状態は密である。

#### 代表断面

地点番号	No. 25
土壤細分	RYD(d)
所在地	郡山市三穂田町富岡字築館
地形, 地質	洪積層丘陵地の凸部緩斜面
海拔高	300m
傾斜, 方向	5°, N58°W
母材, 堆積様式	粘土, 残積
土地利用, 植生	コナラを主とする低灌木林

## 断面形態

- A : 0—17cm, 褐 (3.5YR4/3), 埴質壤土, 軟, 乾, 粒状構造。  
 B<sub>1</sub> : 17—40cm, 赤褐 (5YR5/8), 埴質壤土, 堅, 潤, 弱い堅果状構造, 重粘。  
 B<sub>2</sub> : 40—70cm, 赤褐 (5YR5/8), 埴質壤土, 堅, 潤, 重粘。  
 B<sub>3</sub>C : >70cm, 赤褐 (5YR4/8), 埴質壤土, 固結, 重粘。

天然生のアカマツ林やコナラを主とする広葉樹林が分布し, 生育状態は良好である。地形は単純で, 化学性は良好であるが, 理化学性がわるいためスギの成長は期待できない。アカマツ林の造成にもつともよく適している。また, この土壌の分布地域は地利的条件に恵まれているために, 普通畑として利用されている。

## 片平統 (Kt)

片平以北の丘陵地に分布し, ほとんど洪積層に近い新第三系砂岩を母材としている。地形は平坦ないし緩斜であり, 大谷統の分布地形によく似ているが, 起伏は片平統の方がいくぶん大きい傾向がある。腐植土層の発達は貧弱で, 腐植の浸透による汚染はほとんど認められない。砂質ないし壤土質で, 堆積状態は密であり, 酸性はかなり強いが, 塩基類は比較的多い。下層には細粒礫石が混入し, 凝灰質砂岩の形状を示している。層断面の形態は大谷統によく似ているが, 色調は橙色で, いくぶん明るく, 土性は砂質で, 酸性は強く, 燐酸吸収係数が小さいのが大谷統とちがうところである。

## 代表断面

地点番号	No. 33
土壌細分	RYD(d)
所在地	郡山市片平町字西ザラメキ
地形, 地質	第三紀層丘陵地の凸部平坦地
海拔高	290m
母材, 堆積様式	砂岩, 残積
土地利用, 植生	アカマツ天然生林

## 断面形態

- F : 1cm, アカマツ腐葉  
 A<sub>1</sub> : 0—10cm, 褐 (7.5YR3.4/4), 壤土, 堅, 潤, 粒状構造。

- A<sub>2</sub>B : 10—25cm, 褐 (7.5YR4/6), 砂質壤土, 軟—堅, 潤, 弱い堅果状構造。
- B<sub>1</sub> : 25—45cm, 橙 (5YR6/8), 壤土, 堅, 潤, 粘性あり。
- B<sub>2</sub>C : 45—60cm, 橙 (5YR5.5/8), 壤土, 堅, 潤, 粘性あり, 細浮石が混入, 白黒のカスリ模様をなす。
- C : >60cm, 灰橙 (5YR6/6), 凝灰質砂岩風化層, 固結, 白と黒のカスリ状。
- アカマツ天然生林が多いが, その生育状態は大谷統のものよりも劣る。コナラ, クリなどの広葉樹林も多い。大谷統と同様にアカマツ林の造成に適当な土壤である。

### I. 1. 8 赤 色 土 壤

この土壤は図幅東側北部の白沢村および南部の鶴石山頂付近にきわめて局部的にあらわれている。図幅北部のものは深層風化花崗岩を母材とし, 南部のものは雲母片岩を母材としているが, それらの母材はいずれも赤色風化殻は明赤褐 (25YR)—赤橙色 (10R) の色調を示し, その下部は節理にそつて黒色の金属膜ができたり, あるいは赤橙色と黄褐色の縞状となつたりして, 深層風化層に推移している。

#### 白沢統 (Shi)

深層風化花崗岩の赤色風化殻を母材とし, 丘陵地の凸部平坦地に位置している。表層は赤色の色調が退色して灰橙色 (5YR) を呈しているが下層は明赤褐色 (2.5YR) を呈している。埴質で堆積状態は密であり, 酸性は強いが, 塩基類は比較的多い。磷酸吸収係数は1,000以下である。

阿武隈山地の花崗岩深層風化地域には赤色風化殻の残存がほとんど認められないが, これは浸食過程において剝離, 流亡したものと考えられる。深層風化地域一帯に分布している褐色森林土壤 (黄褐色型) は赤色風化殻下部の深層風化層を母材として生成したもののように観察される。

#### 代表断面

地点番号	No. 21
土壤細分	RD(d)
所在地	安達郡白沢村糖沢字二斗内
地形, 地質	花崗岩類丘陵地の峯部平坦地
海拔高	280m

母材，堆積様式 赤色風化殻，残積

土地利用，植生 クヌギ，コナラ天然生林

断面形態

AB：0—20cm，灰橙（5YR6/4），埴質壤土，堅，堅果状構造。

B：20—40cm，明赤褐（2.5YR5/6），埴質壤土，堅，潤。

C<sub>1</sub>：40—90cm，明赤褐（2.5YR），埴質壤土，固結，花崗岩深層風化層，赤色風化殻，節理にそつて黒色膜（Mn？）生成。

C<sub>2</sub>：>90cm，橙（5YR6/8），壤土，固結，花崗岩深層風化層，赤色風化殻，節理にそつて黒色膜（Mn？）生成。

コナラ，クリ，クヌギなどの広葉樹林によつておおわれているが，生育状態は良好ではない。林下にはツツジ風，その他の乾性植物が多い。土壤の理化学性が不良であるから，人工植栽には不適當である。図幅内では，分布面積はきわめて少ないから，土地利用上あまり問題とはならない。

これまで，郡山図幅の山地，丘陵地にあらわれている24土壤統について記載してきたがつぎにこれらの土壤を概観し，特徴的な事項について列記する。

1. 阿武隈山地の花崗岩地域では深層風化をうけた花崗岩が土壤の母材となつているが，きわめて局所的に残存している赤色風化殻は赤色土壤を生成している。この地域に広く分布する褐色森林土壤（黄褐型）は浸食によつて剝離した赤色風化殻下部の深層風化花崗岩を母材としているようである。

2. 図幅北西部の熱海周辺では急峻な山地地形を形成し，土壤は母材よりも地形の影響を強くうけている。

3. 石英粗面岩および角閃片岩地域では，母材風化の色調が層断面に強くあらわれ，B層の分化，発達が不十分であり，未熟褐色森林土壤を生成している。

4. 新第三系上部の片平層（砂岩）およびそれにつづく洪積層には赤褐—橙色（5YR）の色調をもつ赤黄色土壤が生成している。

5. 丘陵地の各種母材には褐色森林土壤（黄褐型）が生成し，母材によつて，それぞれ特徴のある土壤を生成しているが，いずれも腐植土層の発達は貧弱で，腐植による汚染は少ない。これにたいしては，往時からの過度の森林破壊による気候—生物因子が大きく関係しているようである。



付表 山地、丘陵地地域の土壌分析表

土 壤	土壌 No.	土壌 細分	層位	PH (H <sub>2</sub> O)	置換 酸度 Y <sub>1</sub>	置 換 性		置換 容量 m.e.	Ca 飽和度 %	磷酸吸 収係数
						Ca m.e.	Mg m.e.			
褐色 森林土壌	赤坂1統 As-1	BB	AB	5.1	22.5	3.82	1.03	16.93	22.6	790
			B <sub>1</sub>	5.3	18.8	0.62	0.45	12.78	4.9	900
			B <sub>2</sub>	5.6	23.8	1.43	0.82	13.50	10.6	600
			C	5.7	21.3	3.19	2.47	16.04	19.9	580
	赤坂2統 As-2	BD 崩積	A	5.8	5.6	—	—	—	—	1,180
			AB	5.8	8.8	—	—	—	—	1,130
			A'	5.8	3.8	—	—	—	—	1,040
			AB'	6.1	2.5	—	—	—	—	900
	熱海1統 At-1	BB 礫土	A <sub>1</sub>	5.1	7.5	3.72	1.14	22.13	16.8	850
			A <sub>2</sub> B	5.5	4.4	1.99	0.47	12.75	15.6	740
			BC	5.5	7.5	1.43	0.61	9.80	14.6	660
			C	5.6	20.6	3.74	2.91	16.20	23.1	750
	熱海2統 At-2	BD- BE 崩積	A <sub>1</sub>	5.6	1.3	—	—	—	—	520
			A <sub>2</sub>	5.7	1.9	—	—	—	—	640
			BC	6.0	1.3	—	—	—	—	590
			C	6.1	1.3	—	—	—	—	710
褐色 森林土壌 (黄褐色)	三春1統 Mi-1	BD (d)	A	4.5	18.8	1.55	0.72	23.52	6.6	1,280
			A B	5.0	10.0	0.62	0.41	14.39	4.3	1,060
			B	4.7	31.3	1.94	1.33	13.51	14.4	560
			C	5.1	30.0	2.47	1.13	15.62	15.1	650
	三春1統 Mi-1	BD (d) 未熟土	A B	5.0	16.9	2.05	1.75	13.56	15.1	770
			C <sub>1</sub>	5.3	15.6	3.69	2.15	11.06	33.4	430
			C <sub>2</sub>	5.4	5.6	4.29	2.04	12.68	33.8	520
			C <sub>3</sub>	6.1	3.8	2.85	1.42	8.34	34.2	230
	三春2統 Mi-2	BD 匍行	A B	4.8	36.3	—	—	—	—	1,280
			B	5.3	15.0	—	—	—	—	1,200
	三春2統 Mi-2	BD 匍行	B C	5.5	11.3	—	—	—	—	1,060
			C	5.5	11.3	—	—	—	—	1,060
	三春3統 Mi-3	BD (d)- BD (d)	A <sub>1</sub>	4.7	17.5	—	—	—	—	1,030
			A <sub>2</sub>	5.0	14.4	—	—	—	—	890
			B C	5.5	12.5	—	—	—	—	300
			C	5.9	8.1	—	—	—	—	60
鶴石1統 Ti-1	BB- BD (d)	A B	5.1	8.1	2.37	0.93	15.64	15.2	920	
		B <sub>1</sub>	5.8	1.9	1.12	0.31	6.52	17.2	780	
		B <sub>2</sub>	5.9	1.9	1.32	0.30	5.27	25.0	500	
		C	5.9	3.8	2.33	0.91	5.67	41.1	390	
鶴石2統 Ti-2	BD 崩積	A	5.1	5.0	—	—	—	—	1,110	
		B <sub>1</sub>	5.2	8.8	—	—	—	—	1,040	
		B <sub>2</sub>	5.7	3.8	—	—	—	—	820	
		C	6.1	0.6	—	—	—	—	770	

土 壤	土壤 No.	土壤 細分	層位	PH (H <sub>2</sub> O)	置換 酸度 Y <sub>1</sub>	置 換 性		置換 容量 m.e.	Ca 飽和度 %	磷酸吸 收係數		
						Ca m.e.	Mg m.e.					
褐 色 森林土壤 (灰黃型)	金 沢 統 Ka	5	BD (d)	A B	5.2	6.9	1.33	0.21	6.16	21.6	700	
				B	5.6	3.1	2.55	1.02	8.36	30.5	490	
				C <sub>1</sub>	6.6	0.6	4.83	1.75	9.86	49.0	500	
				C <sub>2</sub>	6.8	0.6	4.44	1.96	9.08	48.9	710	
	河内1統 Ko-1	29	BD (d)	A <sub>1</sub>	4.7	15.6	3.73	1.76	17.60	21.2	900	
				A <sub>2</sub> B	4.9	21.3	2.07	0.31	14.51	14.3	860	
				B <sub>1</sub>	4.9	20.0	3.05	0.86	13.99	21.8	560	
				B <sub>2</sub> C	4.9	43.8	6.82	3.89	26.87	25.4	970	
	河内2統 Ko-2	30	B D 崩積	A	5.5	1.9	—	—	—	—	860	
				B <sub>1</sub>	5.5	3.1	—	—	—	—	590	
				B <sub>2</sub>	5.4	7.5	—	—	—	—	780	
				C	5.6	5.6	—	—	—	—	710	
	小川1統 Og-1	19	BD (d)	A B	5.6	8.1	3.13	1.88	13.58	23.0	730	
				B C	5.8	0.6	5.74	1.74	12.72	45.1	590	
				B	6.0	6.3	2.52	1.58	9.44	26.7	670	
	小川3統 Og-2	10	BD- B1D	A	5.4	5.0	—	—	—	—	380	
				A'	6.0	0.6	—	—	—	—	560	
	未熟褐色 森林土壤 (黃褐色)	山寺1統 Yd-1	24	BD (d) -BC	A B	5.5	10.0	5.79	1.45	20.68	28.0	1,000
					B <sub>1</sub>	5.8	7.5	5.58	1.24	15.50	36.0	920
					B <sub>2</sub>	5.8	11.9	9.97	1.89	23.09	43.2	1,030
C <sub>1</sub>					5.7	10.0	23.81	2.39	56.17	42.4	1,320	
C <sub>2</sub> g					5.5	21.9	14.20	2.18	35.65	39.8	1,060	
C <sub>3</sub>					5.5	18.1	26.89	1.56	76.29	35.2	1,430	
山寺2統 Yd-2		31	B D 崩積	A	6.9	0.6	—	—	—	—	1,260	
				A B	6.1	0.6	—	—	—	—	860	
				B C	6.0	0.6	—	—	—	—	900	
日和田統 Hi		16	BD (d)	A <sub>1</sub>	4.9	6.3	7.33	2.17	22.71	32.3	750	
				A <sub>2</sub>	5.2	6.9	6.49	2.16	23.69	27.4	820	
				B	5.7	3.8	9.98	3.53	18.91	52.8	960	
Cg	5.9	3.8	14.82	5.95	28.80	5.15	1,250					
	矢沢1統 Ya-1	40	BD (d)	A <sub>1</sub>	5.4	2.5	5.14	1.15	20.56	25.0	1,050	
				A <sub>2</sub>	5.5	4.4	1.15	0.21	16.03	7.2	900	
B C				5.4	3.1	0.37	0.14	7.39	5.0	790		
C <sub>1</sub>				5.3	21.3	1.50	0.35	9.24	16.2	380		
C <sub>2</sub>				5.0	35.0	1.60	0.49	11.47	13.9	430		
矢沢2統 Ya-2				41	崩積 礫土	A B	4.4	62.5	—	—	—	—
	C <sub>1</sub>	5.3	34.4			—	—	—	—	770		
	C <sub>2</sub>	5.2	42.5			—	—	—	—	770		
未熟褐色 森林土壤 (暗褐色)	高倉1統 Ta-1	17	BD (d) -BC	A B	4.8	16.3	3.15	1.26	30.64	10.3	1,210	
				B	5.6	7.5	3.32	0.75	22.67	14.6	1,060	
				B C	5.4	11.3	2.65	0.87	11.01	24.1	880	
高倉2統 Ta-2	18	B D 崩積	A <sub>1</sub>	5.5	1.9	—	—	—	—	500		
			A <sub>1</sub>	5.5	4.4	—	—	—	—	490		
			A C	5.8	1.9	—	—	—	—	670		

土 壤	土 壤 No.	土 壤 細 分	土 壤 層 位	CAP (H <sub>2</sub> O)	置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	置 換 性		置 換 容 量 m.e.	Ca 飽 和 度 %	磷酸吸 収 係 数	
						Ca m.e.	Mg m.e.				
赤 黄 色 土 壤	大 谷 統 Oy	25	RYD (d)	A	6.2	0.6	5.14	1.54	15.22	33.8	1,130
				B <sub>1</sub>	5.7	1.9	5.50	1.70	15.37	35.8	1,410
				B <sub>2</sub>	5.6	3.8	4.82	2.20	20.10	24.0	1,630
				B <sub>2</sub> C	5.8	0.6	2.99	2.34	15.91	18.8	1,310
	片 平 統 Kt	33	RYD (d)	A <sub>1</sub>	4.7	20.0	2.68	0.62	16.89	15.9	910
				A <sub>2</sub> B	5.1	18.1	3.47	1.26	14.94	23.2	830
				B <sub>1</sub>	4.7	25.0	3.41	1.48	19.99	17.1	1,050
				B <sub>2</sub> C	4.7	28.1	3.13	1.12	18.57	16.9	970
C	4.9	27.5	2.52	0.88	15.77	16.0	830				
赤 色 土 壤	白 沢 統 Shi	21	RD(d)	A B	5.1	17.5	2.99	0.31	13.60	22.0	1,020
				B	4.9	26.3	3.30	1.86	14.86	22.0	780
				C <sub>1</sub>	5.1	26.3	2.15	1.39	13.90	15.5	840
				C <sub>2</sub>	5.1	47.5	1.33	1.53	17.18	7.7	860

6. 丘陵地、台地にあらわれる褐色森林土壌（灰黄型）は母材の性質のほかに、内部排水の不良による停滞水の影響を反映している。

7. 調査地域には火山灰の堆積はなく、また混入もほとんど認められない。洪積層に由来する大谷統に凝灰質物の混入が比較的多く認められただけである。

## I. 2 台地、低地地域の土壌

### I. 2. 1 概 説

本台地、低地地域の土壌は、その断面形態、母材、堆積様式により次の5土壌統群に大別され、さらに27土壌統に細分される。

土壌群	土じょう統	地 形	土地利用
黄褐色土壌	1) 安積統	上 位 段 丘	畑
	2) 郡山統	〃	〃
	3) 福室統	自 然 堤 防	〃
	4) 四郎丸統	〃	〃
	5) 荒浜統	〃	〃
	6) 北多久統	上 位 段 丘	水 田
	7) 氷見統	中 下 位 段 丘	〃

黒色土壌	8) 大槻統	中位段丘	畑
	9) 篠永統	//	水田
灰褐色土壌	10) 諸橋統	谷底低地	//
	11) 三穂田統	主として上・中位段丘	//
	12) 逢瀬統	中・下位段丘	//
	13) 安来統	主として中・下位段	//
	14) 善通寺統	下位段丘	//
丘灰色土壌	15) 喜久田統	主として中位段丘	//
	16) 早稲原統	上位段丘	//
	17) 藤代統	主として下位段丘	//
	18) 宝田統	中位段丘	//
	19) 加茂統	谷底低地	//
グライ土壌	20) 保倉統	下位段丘	//
	21) 川副統	下位段丘	//
	22) 千年統	中位段丘	//
強グライ土壌	23) 富曾亀統	谷底低地	//
	24) 田川統	下位段丘	//
	25) 西山統	谷底低地	//
	26) 東浦統	//	//
	27) 芝井統	//	//

#### 黄褐色土壌

本土壌群には上位段丘に分布し畑作に利用されている強粘質な安積統、粘質な郡山統、水田に利用されており強粘質で Mn 結核をもつ北多久統、中、下位段丘に分布し下層に半角礫を含む壤質の水見統、および阿武隈川の自然堤防上に分布し、畑作に利用されている粘質な福室統、壤質な四郎丸統、砂質な荒浜統が入る。

#### 黒色土壌

本土壌群には、ほぼ全層あるいは断面上部が黒色～褐色を呈し、風積非固結火成岩（火山灰）の移動再堆積物を母材とする大槻統と篠永統が入る。断面内には泥炭層、黒泥層をもたない。前者は火山灰層が厚く畑地として利用され、後者は火山灰層が薄

く 50cm 前後以下は黄褐色～灰白色の粘土層であり水田として利用されている。なお図幅西部の多田野付近では火山灰層に小円礫を含んでいる。

#### 灰褐色土壌

本土壌群に入る土壌統のうち主要なものは、郡山盆地西部の中、下位段丘に分布し、三紀層の影響を強くうけた堆積物を母材とする。強粘質で Mn 結核のある三穂田統、粘質な逢瀬統である。その他小河川の沖積地に分布する壤質な安来統、壤質で Mn 結核のある普通寺統、阿武隈山地の谷底低地に分布する強粘質な諸橋統が入る。

#### 灰色土壌

本土壌群に入る土壌統の主要なものは藤田川以北の上位段丘の東部および五百川上流右岸の中位段丘、逢瀬川中流左岸の中位段丘上に分布する強粘質で Mn 結核のある早稲原統、および五百川以北の中位段丘、藤田川以南の中位段丘に分布する強粘質な喜久田統である。その他五百川、痕瀬川下流の沖積地、阿隈武山地の谷底低地に分布する粘質な藤代統、五百川以北の中位段丘上の粘質で Mn 結核のある宝田統、谷底低地に僅かに見られる壤質な加茂統が入る。

#### グライ土壌

本土壌群に入るこの地域の土壌統は断面中 50cm 以下の主要な土層がグライ色（色相 10Y およびそれより青色）を呈するか、または、 $\alpha$ 、 $\alpha'$  ジピルジールに対して即時鮮明な橙紅色反応を示し（グライ層）、断面内に泥炭層、黒泥層、腐植質火山灰層をもたない。本地域にはグライ土壌の分布は狭く、藤田川以南の上位段丘を細長く削つて生じた中・下位段丘上に分布する強粘質な保倉統、粘質な千年統、および比較的広い中・下位段丘上に分布し、強粘質で Mn 結核のある川副統が入る。

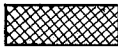
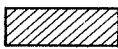
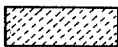

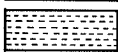
#### 強グライ土壌

本土壌群に入る本地域の土壌統は、ほとんど全層がグライ層で、断面の主要な部分に泥炭層、黒泥層、腐植質火山灰層をもたない。これに入るものには阿武隈山地の谷底低地に分布し旧期花崗岩の風化物を母材とする強粘質な富曾亀統、新期花崗岩を母材とし、粘質で斑紋のある東浦統。同じく新期花崗岩を母材とするか、下流が閉ざされたような狭小な谷底低地に分布し斑紋のみられない粘質な西山統、壤質な芝井統、および盆地西部三穂田町の河道沿に分布し、強粘質で斑紋のある田川統がある。

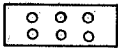
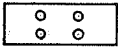
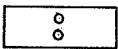
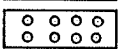
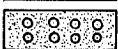
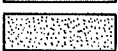
以上本図幅内に見られる各土壌統の代表地点における柱状断面図を示せば次図の通

(凡例)

腐植




	頗る富む (黒色を呈するもの) (10%~20%)
	富む (黒色を帯びるもの) (5%~10%)
	含む (暗色を呈するもの) (2%~5%)
	H 層
	F 層

礫および砂




	頗る富む (20%~50%)
	富む (10%~20%)
	含む (5%~10%)
	礫土 (50%以下)
	礫土 (砂質)
	砂層

○	円礫
□	半角礫
△	角礫

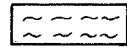
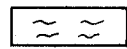
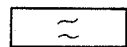
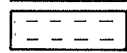
層界

	明瞭 (厚さ 1 cm ~ 3 cm)
	判然 (厚さ 3 cm ~ 5 cm)
	渐变 (厚さ 5 cm 以上)

形状により次の様に表示する

	平担
	波状
	不規則

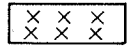
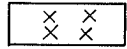
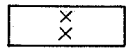

泥炭および黒泥

	泥炭層 (大部分が泥炭)
	泥炭質 (泥炭 1/2 程度)
	泥炭を含む (泥炭 1/3 未満)
	黒泥層 (大部分が黒泥)

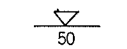
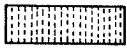
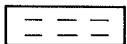
基岩および盤層

	基岩
	鉄盤層
	硬盤層

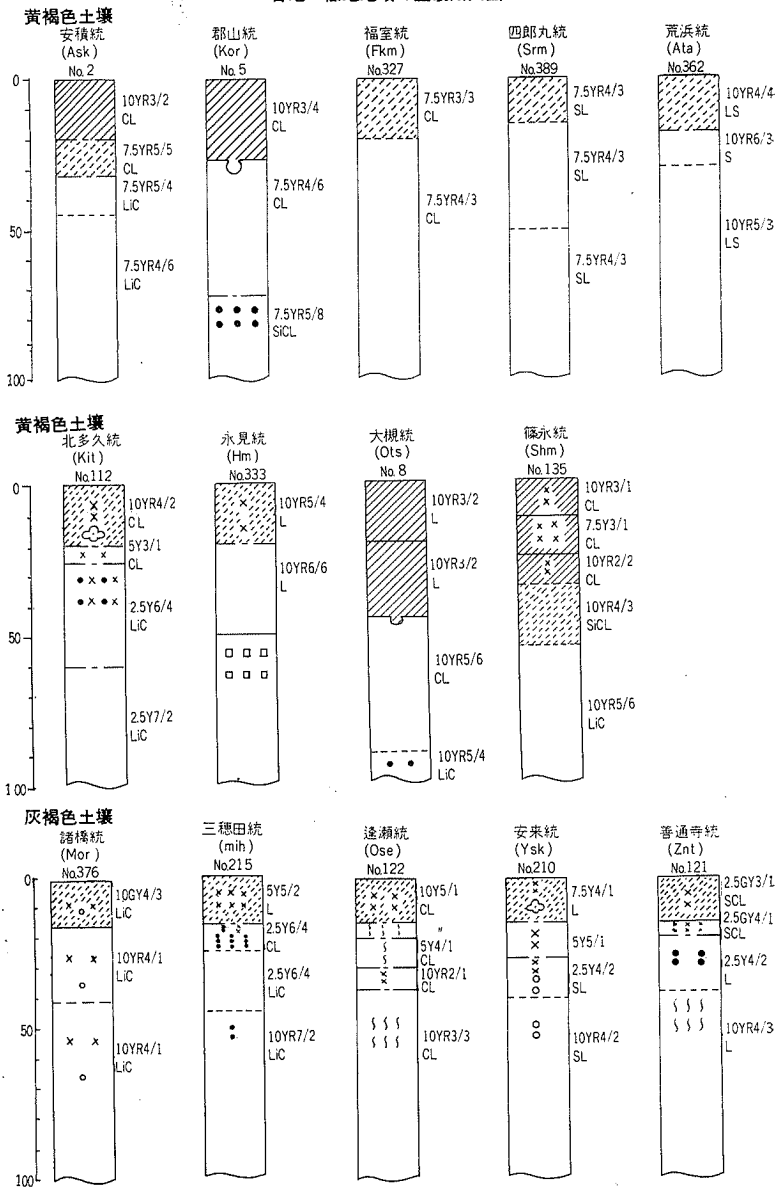
班紋および結核

	頗る富む (30%以上)
	富む (10%~30%)
	含む (10%未満)
×	糸状系根状 膜状雲状班
}	管状班
●	点状結核状班
	グライ班

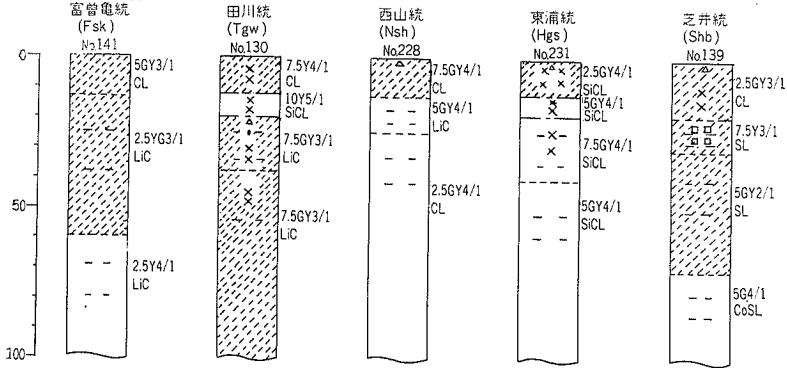
(その他)

	湧水面 50
	ポドソルの集積層
	グライ層

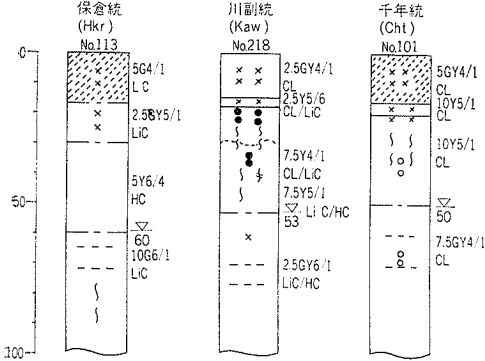
台地・低地地域の土壌断面図



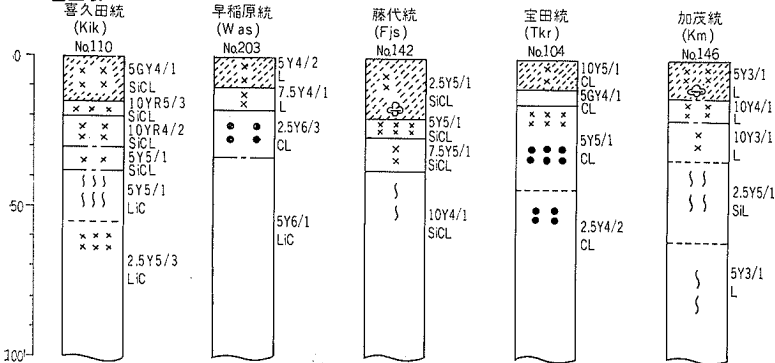
強グライ土壌



グライ土壌



灰色土壌





りである。

## I. 2.2. 黄褐色土壌

### 安積統

本土壌統は比較的軟かい凝灰岩を母材とする上位段丘上の黄褐色土壌であり、本図幅下部の須賀川市内に分布し林地および畑地として利用されている。

#### 代表断面

地点番号：No.2

所在地：須賀川市

地形地質：上位段丘，洪積層

標高：270m

傾斜：平坦

母材および堆積模式：半固結水成岩，水積

土地利用：赤松林および普通畑

#### 断面形態

##### 第1層 0～20cm

腐植にとむ黒褐色 (10YR3/2), CL, 礫なし, 石英粒をふくむ, 粒状・角塊状構造, ち密度22, 可塑性弱, 粘着性弱, 植物根ふくむ, 層界平坦判然。

##### 第2層 20～32cm

にぶい褐色 (7.5YR5/5)CL, 礫なし, 石英粒をふくむ, 角塊状構造, ち密度22, 可塑性弱, 粘着性弱, 層界平坦判然。

##### 第3層 32～45cm

にぶい褐色 (7.5YR5/4)Lic, 礫なし, 石英粒をふくむ, 角塊状構造, ち密度22, 可塑性弱, 粘着性弱, 層界平坦漸変。

##### 第4層 45cm

褐色 (7.5YR4/6) Lic, 礫なし, 石英粒をふくむ, 鉄の結核あり, ち密度22, 可塑性中, 粘着性中。

### 郡山統

本土壌統は粘質な洪積層を母材とする黄褐色土壌である。盆地東部の富久山町, 旧

郡山市，盆粘南部の安積町に広く分布する他，盆地西南部の三穂田町を中心に島状に分布している上位段丘上にみられ，林地および畑地として利用されている。

#### 代表断面

地点番号：No.5

所在地：郡山市菜根一丁目

地形地質：上位段丘，洪積層

標高：250m

傾斜：平坦

母材および堆積模式：非固結水成岩，水積

土地利用：林および畑

#### 断面形態

第1層 0～27cm

腐植にとむ暗褐色（10YR3/4）CL，礫なし，細粒状構造，ち密度12，可塑性弱，粘着性弱，層界不規則明瞭。

第2層 27～72cm

褐色（7.5XR4/6）CL，礫なし，角塊状構造，ち密度25，可塑性弱，粘着性弱，層界平坦判然。

第3層 72cm

明褐色（7.5YR5/8）Sic1，礫なし，角塊状構造，Mn 結核にすこぶるとむ，ち密度25，可塑性弱，粘着性弱，下層に粘土皮膜あり。

#### 福室統

本土壌統は粘質な阿武隈川沖積物を母材とする自然堤防上に分布し，畑地として利用されている。

#### 代表断面

地点番号：No.327

所在地：山市横塚柳原

地形地質：自然堤防，沖積層

標高：225m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：畑

#### 断面形態

##### 第1層 0～20cm

腐植をふくむ暗褐色（7.5YR3.5/3）CL，礫なし，粒状構造，ち密度15，可塑性弱，粘着性弱，湿，植物根とむ，層界平坦判然。

##### 第2層 20cm

褐色（7.5YR4/3）CL，礫なし，団塊状構造，ち密度16，可塑性弱，粘着性弱，湿。

#### 四郎丸統

本土壌統は壤質な阿武隈川沖積物を母材とする自然堤防上に分布し，畑地として利用されている。

#### 代表断面

地点番号：No. 389

所在地：富久山町福原上台

地形地質：自然堤防，沖積層

標高：220m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：畑

#### 断面形態

##### 第1層 0～15cm

腐植をふくむ褐色（7.5XR4/3）SL，細円礫あり，団塊状構造，ち密度15，可塑性弱，粘着性弱，湿，植物根富む，層界平坦判然。

##### 第2層 15～50cm

褐色（7.5YR4/3）SL，細円礫あり，団塊状構造，ち密度11，可塑性弱，粘着性弱，湿，層界平坦漸変。

##### 第3層 50cm

褐色（7.5YR4/3）SL，[細円礫あり，単粒状構造，ち密度10，可塑性弱，粘着性

弱, 湿。

### 荒浜統

本土壤統は砂質な阿武隈川沖積物を母材とする自然堤防上に分布し, 畑地として利用されている。

#### 代表断面

地点番号: No. 362

所在地: 田村町金谷上河原

地形地質: 自然堤防, 沖積層

標高: 225m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 非固結水成岩, 水積

土地利用: 畑

#### 断面形態

##### 第1層 0~18cm

腐植を含む褐色(10YR4/4) LS, 礫なし, ち密度6, 可塑性なし, 粘着性なし, 層界平坦判然。

##### 第2層 18~30cm

にぶい黄褐色(10YR6/3) S, 礫なし, 単粒状構造, ち密度10, 可塑性なし, 粘着性なし, 層界平坦判然。

##### 第3層 30cm~

にぶい黄褐色(10YR5/3) LS, 礫なし, 単粒状構造, ち密度15, 可塑性なし, 粘着性なし。

### 北多久統

本土壤統は上位段丘の Mn 結核をもつ黄褐色の洪積層を母材とする, 強粘着な黄褐色土壌であり, 盆地北部の藤田川兩岸の台地にもつとも広く分布している。

#### 代表断面

地点番号: No. 112

所在地: 郡山市喜久田堀内向原

地形地質: 上位段丘, 洪積層

標高：260m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，小積

土地利用：水田

#### 断面形態

第1層 0～20cm

腐植を含む灰黄褐色（10YR4/2）CL，礫なし，糸状・膜状斑ふくむ，グライ斑あり，ち密度8，可塑性中，粘着性中，層界平坦判然。

第2層 20～26cm

オリーブ黒色（5Y3/1）CL，礫なし，糸根状斑とむ，ち密度17，可塑性中，粘着性中，層界平坦判然。

第3層 26～60cm

にぶい黄色（25Y6/4）Lic，礫なし，Mn 結核・斑鉄とむ，ち密度17，可塑性強，粘着性強，層界平坦判然。

第4層 60cm～

灰黄色（2.5Y7/2）Lic，礫なし，可塑性極強，粘着性強。

#### 永見統

本土壌統は盆地西部の第三紀層の丘陵に境された下位段丘上に分布する，地表から約50cm以下が礫層をなす壤質の黄褐色土壌である。

#### 代表断面

地点番号：No.333

所在地：郡山市三穂田町山口清水

地形地質：下位段丘，洪積層

標高：280m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結，固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

第1層 0～20cm

腐植を含むにぶい黄褐色 (10YR5/4) L, 糸状・糸根状斑紋ふくむ。可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦判然。

第2層 20~50cm

明黄褐色 (10YR6/6) L, 可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦明瞭。

第3層 50cm~

半角礫からなる礫層。

### I. 2. 3 黒色土壌

#### 大槻統

本土壌統は主として逢瀬川と南川との間にある中位段丘上に堆積した火山灰を母材とする壤質な黒色土壌である。次に述べる篠永統よりも地形的にやや高く, 畑地として利用されている。

#### 代表断面

地点番号: No. 8

所在地: 郡山市大槻殿町

地形地質: 中位段丘, 洪積層

標高: 260m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 火山灰, 水積

土地利用: 畑

#### 断面形態

第1層 0~20cm

腐植にとむ黒褐色 (10YR3/2) L, 粒状構造, ち密度18, 可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦明瞭。

第2層 20~45cm

腐植にとむ黒褐色 (10YR3/2) L, 団塊状構造, ち密度18, 可塑性中, 粘着性弱, 層界不規則明瞭。

第3層 45~90cm

黄褐色 (10YR5/6) CL, 団塊状構造, ち密度22, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦

渐变。

#### 第4層 90cm～

にぶい黄褐色(10YR5/4) Lic, Mn 結核あり, ち密度密, 可塑性強, 粘着性強。

#### 篠永統

本土壤統も大槻統と同じく火山灰を母材とし, ほぼ同じ地域の中位段丘上に分布するが, 火山灰層は比較的薄く 50cm 前後以下は黄褐色の洪積層である。地形的にやや低く水田として利用されている。

#### 代表断面

地点番号: No. 135

所在地: 郡山市町東

地形地質: 中位段丘, 洪積層

標高: 240m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 火山灰, 水積

土地利用: 水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～12cm

腐植にとむ黒褐色(10YR2/1) CL, 糸根状・膜状斑含む, グライ斑あり, ち密度8, 可塑性中, 粘着性中, 層界平坦明瞭。

##### 第2層 12～25cm

腐植にとむオリーブ黒色(7.5Y3/1) CL, 膜状斑とむ, ち密度18, 可塑性中, 粘着性中, 層界平坦明瞭。

##### 第3層 25～35cm

腐植にとむ黒褐色(10YR2/2) CL, 糸根状斑含む, ち密度16, 可塑性中, 粘着性中, 層界平坦渐变。

##### 第4層 35～55cm

腐植をふくむにぶい黄褐色(10YR4/3) SicL, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦渐变。

##### 第5層 55cm～

黄褐色 (10YR5/6) Lic, 可塑性極強, 粘着性強。

## I. 2. 4 灰褐色土壌

### 諸橋統

本土壌統は図幅東北部, 阿武隈川に面した谷底低地に分布し, 永田として利用されている。この谷底低地の地形的な特徴は, 傾斜が急で川が深く, 狭小な段丘が発達していることである。

#### 代表断面

地点番号: No. 376

所在地: 白沢村糠沢

地形地質: 谷底低地, 沖積層

標高: 220m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 非固結水成岩, 水積

土地利用: 水田

#### 断面形態

第1層 0~15cm

暗緑灰色 (10GY4/1) Lic, 礫ふくむ, 糸根状斑紋とむ, ち密度10, 可塑性強, 粘着性強, 層界水平明瞭。

第2層 15~40cm

褐灰色 (10YR4/1) Lic, 礫ふくむ, 斑紋とむ, 密20度, 可塑性強, 粘着性強, 層界漸変。

第3層 40cm~

褐灰色 (10YR4/1) Lic, 礫ふくむ, 斑紋含む, ち密度20, 可塑性強, 粘着性強。

### 三穂田統

本土壌統は主として盆地西部の上位~中位段丘上に分布し, 強粘質で Mn 結核にとむ灰褐色土壌である。断面形態は既設の緒方統に類似しているが第3層以下に鉄の斑紋がみられない。また緒方統が沖積地に分布しているのに対し, 本土壌は洪積台地上



に分布しているので土壌統の定義にしたがい本図幅で新設した。

#### 代表断面

地点番号：No. 215

所在地：郡山市三穂田町山寺

地形地質：上位段丘，洪積層

標高：280m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～16cm

腐植をふくむ灰オリーブ色 (5Y5/2) L，膜状斑すこぶるとむ，ち密度12，可塑性中，粘着性弱，層界平坦判然。

##### 第2層 16～25cm

にぶい黄色 (2.5Y6/4) CL，柱状構造，糸根状斑富む，Mn 結核すこぶる富む，ち密度25，可塑性強，粘着性中，層界平坦漸変。

##### 第3層 25～45cm

にぶい黄色 (2.5Y6/4) Lic，鉄の斑紋なし，柱状構造，ち密度24，可塑性強，粘着性強，層界平坦漸変。

##### 第4層 45cm

にぶい黄橙色 (10YR7/2) Lic，柱状構造，Mn 結核ふくむ，鉄の斑紋なし，ち密度22，可塑性強，粘着性強。

#### 逢瀬統

本土壌統は主として盆地西部藤田川，逢瀬川，上流の中，下位段丘，および南川と笹原川に境された中・下位段丘上に広く分布する粘質な灰褐色土壌である。断面形態は既設の金田統に類似しているが，金田統が沖積地に分布しているのに対し，本土壌は洪積台地上に分布しているので，土壌統の定義にしたがい本図幅で新設した。

#### 代表断面

地点番号：No. 122

所在地：郡山市逢瀬町多田野北近江堂

地形地質：中・位段丘，洪積層

標高：290m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～15cm

腐植をふくむ灰色（10Y5/1）CL，礫なし，膜状斑富む，ち密度9，可塑性強，粘着性中，層界平坦判然。

##### 第2層 15～20cm

灰色（10Y5/1）CL，礫なし，脈状斑すこぶる富む，ち密度18，可塑性強，粘着性中，層界平坦判然。

##### 第3層 20～30cm

灰色（5Y4/1）CL，細小半角礫あり，脈状斑ふくむ，ち密度15，可塑性強，粘着性中，層界平坦判然。

##### 第4層 30～37cm

黒色（10YR2/1）CL，細小半角礫あり，角柱状構造，糸状斑ふくむ，ち密度18，可塑性強，粘着性中，層界平坦判然。

##### 第5層 37cm～

暗褐色（10YR3/3）CL，細小半角礫あり，脈状斑すこぶる富む，ち密度17，可塑性強，粘着性中。

#### 安来統

本土壤統は主として五百川上流，および笹原川下流の沖積地に分布する壤質な灰褐色土壌である。

#### 代表断面

地点番号：No.210

所在地：郡山市熱海町安子島上河原

地形地質：谷底低地，沖積層

標高：240m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

第1層 0～15cm

腐腐植をふくむ灰色（7.5Y4/1）L，礫なし，膜状・糸根状斑ふくむ，グライ斑あり，ち密度14，可塑性中，粘着性弱，層界平坦判然。

第2層 15～27cm

灰色（5Y5/1）L，礫なし，糸根状・膜状斑ふくむ，ち密度22，可塑性中，粘着性弱，層界平坦判然。

第3層 27～40cm

暗灰黄色（2.5Y4/2）SL，大円礫ふくむ，斑紋ふくむ，ち密度18，可塑性弱，粘着性弱，層界平坦漸変。

第4層 40cm～

灰黄褐色（10Y4/2）SL，大円礫ふくむ，斑紋なし，ち密度14，可塑性弱，粘着性弱。

#### 普通寺統

本土壤統の分布は狭く，僅かに逢瀬川中流の谷底低地に見られる。壤質でMn結核をもつ灰褐色土壌である。

#### 代表断面

地点番号：No. 121

所在地：郡山市片平町阿久戸

地形地質：谷底低地，沖積層

標高：250m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

## 第1層 0～15cm

腐植をふくむ暗オリーブ灰色 (2.5CL3/1) SCL, 礫なし, 糸根状斑ふくむ, ち密度6, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦判然。

## 第2層 15～20cm

暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) SCL, 礫なし, 糸根状斑すこぶる富む, ち密度17, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦判然。

## 第3層 20～38cm

暗灰黄色 (2.5Y4/2) L, 礫なし, 弱角塊状構造, 粘土被膜あり, Mn結核富む, ち密度17, 可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦漸変。

## 第4層 38cm～

にぶい黄褐色 (10YR4/3) L, 礫なし, 弱角塊状構造, 管状斑富む, 可塑性中, 粘着性弱。

## Ⅱ. 2. 4 灰色土壌

## 喜久田統

本土壌統は五百川以北および藤田川以南の中位段丘上に広く分布し, 洪積層の灰白色強粘土を母材とする強粘質な灰色土壌である。土壌断面形態は既設の東和統に類似しているが東和統が沖積地に分布しているのに対して本土壌は洪積台地上に分布しているので, 土壌統の定義にしたがい本図幅で新設した。

## 代表断面

地点番号: No. 110

所在地: 郡山市喜久田町桑畑

地形地質: 中位段丘, 洪積層

標高: 250m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 非固結水成岩, 水積

土地利用: 水田

## 断面形態

第1層 0～15cm

腐植をふくむ暗オリーブ灰色 (5GY4/1) Sicl, 礫なし, 糸根状斑富む,  $\alpha$ - $\alpha'$  ジ  
 ビルジール反応中, ち密度10, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦明瞭。

第2層 15~20cm

にぶい黄褐色 (10YR5/3) Sicl, 礫なし, 糸根状斑すこぶる富む, ち密度18, 可  
 塑性強, 粘着性強, 層界平坦明瞭。

第3層 20~30cm

灰黄褐色 (10YR4/2) Sicl, 礫なし, 雲状斑富む, ち密度18, 可塑性強, 粘着性  
 強, 層界平坦判然。

第4層 30~38cm

灰色 (5Y5/1) Sicl, 礫なし, 雲状斑ふくむ, ち密度18, 可塑性強, 粘着性強,  
 層界平坦判然。

第5層 38~55cm

灰色 (5Y5/1) Lic, 礫なし, 脈状斑すこぶる富む, ち密度17, 可塑性強, 粘着性  
 強, 層界平坦漸変。

第6層 55cm~

黄褐色 (2.5Y5/3) Lic, 礫なし, 糸根状斑すこぶる富む, ち密度17, 可塑性強,  
 粘着性強。

早稲原統

本土壤統は主として日和田町西部の上位段丘に広く分布し, 洪積層の灰白色強粘土  
 を母材とする強粘質でMn結核を有する灰色土じょうである。土壤断面形態は既設の  
 佐賀統に類似しているが約 20cm 以下には鉄の斑紋がみられない。また佐賀統が沖積  
 地に分布しているのに対して, 本土壤は洪積台地に分布しているのので, 土壤統の定義  
 にしたがって本図幅で新設した。

代表断面

地点番号: No. 203

所在地: 郡山市日和田町高倉藤段

地形地質: 上位段丘, 洪積層

標高: 240m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～10cm

腐植をふくむ灰オリーブ色 (5Y4/2) L, 膜状斑ふくらむ, グライ斑あり, ち密度6, 可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦明瞭。

##### 第2層 10～17cm

灰色 (7.5Y4/1) L, 膜状斑ふくらむ,  $\alpha\alpha'$ -ジピルジール反応強, ち密度11, 可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦明瞭。

##### 第3層 17～33cm

にぶい黄色 (2.5Y6/3) CL, 角塊状構造, Mn 結核富む, 鉄の斑紋なし,  $22'$ -ジピルジール反応なし, ち密度20, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦判然。

##### 第4層 33cm～

灰色 (5Y6/1) Lic, 角塊状構造, 斑紋なし, ち密度24, 可塑性強, 粘着性強。

#### 藤代統

本土壤統は主として五百川，逢瀬川の下流および阿武隈山地北部の比較的広くて平坦な谷底低地にみられる壤質な灰色土壌である。

#### 代表断面

地点番号：No. 142

所在地：安達郡百沢村白岩田中

地形地質：谷底低地，沖積層

標高：280m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～20cm

腐植をふくむ黄灰色 (2.5Y5/1) SicL, 糸根状斑ふくらむ, グライ斑ふくらむ, ち密度6, 可塑性強, 粘着性強, 雲母ふくらむ, 層界平坦明瞭。

## 第2層 20～26cm

灰色 (5Y5/1) SicL, 膜状斑すこぶる富む, ち密度16, 可塑性強, 粘着性強, 雲母ふくむ, 層界平坦明瞭。

## 第3層 26～37cm

灰色 (7.5Y5/1) SicL, 角柱状構造, 膜状斑ふくむ, ち密度17, 可塑性強, 粘着性強, 雲母富む, 層界平坦明瞭。

## 第4層 37cm～

灰色 (10Y5/1) SicL, 角柱状構造, 管状斑ふくむ, ち密度17, 可塑性強, 粘着性強, 雲母すこぶる富む。

## 宝田統

本土壤統は、五百川以北の中位段丘上に分布する粘質で Mn 結核をもつ灰色土壤である。

## 代表断面

地点番号: No. 104

所在地: 安達郡本宮町関下

地形地質: 中位段丘, 洪積層

標高: 230m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 非固結水成岩, 水積

土地利用: 水田

## 断面形態

## 第1層 0～10cm

腐植をふくむ灰色 (10Y5/1) CL, 礫なし, 糸根状斑ふくむ, ち密度8, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦明瞭。

## 第2層 10～15cm

暗オリーブ灰色 (5GY4/1) CL, 礫なし, ち密度8, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦明瞭。

## 第3層 15～43cm

灰色 (5Y5/1) CL, 細円礫ふくむ, 糸根斑・Mn 結核すこぶる富む, ち密度17,

可塑性強，粘着性中，層界平坦漸変。

第4層 43cm

暗黄灰色 (2.5Y4/2) CL, 細円礫ふくむ, Mn 結核富む, ち密度17, 可塑性強, 粘着性中。

加茂統

本土壤統の分布は狭く，五百川下流および阿武隈川に面する山地の谷底低地に見られる花崗岩を母材とする壤質な灰色土壌である。

代表断面

地点番号：No. 146

所在地：田村郡中田町赤沼

地形地質：谷底低地，沖積層

標高：240m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

断面形態

第1層 0～12cm

腐植をふくむオリーブ黒色 (5Y3/1) L, 弱角柱状構造, 膜状, 糸根状斑富む, グライ斑あり, ち密度9, 可塑性中, 粘着性弱, 雲母富む, 層界平坦判然。

第2層 12～20cm

灰色 (10Y4/1) L, 弱角柱状構造, 糸根状斑富む, ち密度17, 可塑性中, 粘着性弱, 雲母富む, 層界平坦判然。

第3層 20～33cm

オリーブ黒 (10Y3/1) L, 弱角柱状構造, 膜状斑ふくむ, ち密度17, 可塑性中, 粘着性弱, 雲母富む, 層界平坦漸変。

第4層 33～60cm

黄灰色 (2.5Y5/1) SiL, 角柱状構造, 脈状斑ふくむ, ち密度15, 可塑性中, 粘着性弱, 雲母富む。



## I. 2. 1 グライ土壌

### 保倉統

本土壌統の分布は狭く、藤田川、石延川の谷底低地および逢瀬川以北の狭小な下位段丘上にある強粘質なグライ土壌である。

#### 代表断面

地点番号：No. 113

所在地：郡山市喜久田町堀内下前田

地形地質：谷底低地，沖積層

標高：240m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～17cm

腐植をふくむ暗緑灰 (5G4/1) Lic，糸根状斑ふくむ，ち密度14，可塑性強，粘着性強，層界平坦判然。

##### 第2層 17～30cm

オリーブ灰色 (2.5GY5/1) Lic，糸根状斑ふくむ，ち密度14，可塑性強，粘着性強，層界平坦判然。

##### 第3層 30～60cm

オリーブ黄色 (5Y6/4) HC， $\alpha\alpha'$ -ジビルジール反応なし，ち密度14，可塑性強，粘着性強，層界平坦判然，湧水面60cm。

##### 第4層 60cm～

緑灰色 (10G6/1) Lic，管状斑ふくむ， $\alpha\alpha'$ -ジビルジール反応強，可塑性強，粘着性強。

### 川副統

本土壌統は笹原川上流左岸の下位段丘にみられる強粘質で Mn 結核をもつグライ土壌である。

## 代表断面

地点番号：No. 218

所在地：郡山市三穂田町

地形地質：下位段丘，洪積層

標高：250m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

## 断面形態

## 第1層 0～15cm

腐植をふくむ暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) CL, 礫なし, 膜状斑富む, ち密度5, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦明瞭。

## 第2層 15～17cm

黄褐色 (2.5Y5/6) CL/Lic, 礫なし, 雲状斑ふくむ, ち密度15, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦明瞭。

## 第3層 17～30cm

灰色 (7.5Y4/1) CL/Lic, 礫なし, 脈状斑・Mn結核富む,  $\alpha\alpha'$ -ジピルジール反応なし, ち密度15, 可塑性強, 粘着性強, 層界波状漸変。

## 第4層 30～53cm

灰色 (7.5Y5/1) Li/HC, 礫なし, 脈状斑富む, 糸状斑, Mn結核ふくらむ,  $\alpha\alpha'$ -ジピルジール反応なし, 密度12, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦判然, 湧水面

## 第5層 53cm～

オリーブ灰色 (2.5GY6/1) Lic/HC, 礫なし, 糸状斑ふくむ,  $\alpha\alpha'$ -ジピルジール反応強 ち密度10, 可塑性強, 粘着性強。

## 千年統

本土壤統は主として五百川以北および逢瀬川下流左岸の狭小な中・下位段丘上に分布する壤質なグライ土壌である。

## 代表断面

地点番号：No. 101

所在地：安達郡本宮町岩根池下

地形地質：中位段丘，洪積層

標高：250m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

第1層 0～16cm

腐植をふくむ暗オリーブ灰色（5GY4/1）CL，糸根状斑富む，ち密度5，可塑性強，粘着性中，層界平坦判然。

第2層 16～20cm

灰色（10Y5/1）CL，糸根状斑富む，ち密度13，可塑性強，粘着性中，層界平坦判然。

第3層 20～50cm

灰色（10Y5/1）CL，中小円礫ふくむ，管状斑富む，ち密度13，可塑性強，粘着性中，湧水面50cm，層界平坦判然。

第4層 50cm～

暗緑灰色（7.5GY4/1）CL，中小円礫ふくむ， $\alpha\alpha'$ -ジピルジール反応強。

### I. 2. 7 強グライ土壌

#### 富會亀統

本土壌統は阿武隈山地の旧期花崗岩地帯の谷底低地にみられる強粘質で，斑紋のない強グライ土壌である。

#### 代表断面

地点番号：No. 141

所在地：田村郡三春町七草木

地形地質：谷底低地，沖積層

標高：320m

傾斜：平坦母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

断面形態

第1層 0~13cm

腐植ふくむ暗オリーブ灰色(5GY3/1) CL, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦漸変。

第2層 13~60cm

暗オリーブ灰色(2.5GY3/1) Lic, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦漸変。

第3層 60cm~

暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) Lic, 可塑性強, 粘着性強。

田川統

本土壤統は主として笹原川以南の台地を削った狭小な下位段丘上にある強粘質で斑紋をもつ強グライ土壤である。

代表断面

地点番号: No. 130

所在地: 郡山市安積町牛庭

地形地質: 下位段丘, 洪積層

標高: 250m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 非固結水成岩, 水積

土地利用: 水田

断面形態

第1層 0~12cm

腐植をふくむ暗緑灰色(7.5GY4/1) CL, 糸状, 膜状斑ふくむ, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦判然。

第2層 12~20cm

灰色(10Y5/1) SicL, 糸状, 膜状斑ふくむ, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦判然。

第3層 20~38cm

暗緑灰色(7.5GY3/1) Lic, 糸状, 膜状斑ふくむ, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦漸変。

## 第4層 33cm

暗緑灰色 (7.5GY3/1) Lic, 糸状, 膜状斑ふくむ。

## 西山統

本土壤統も主として阿武隈山地の新时期花崗岩地帯にある谷底低地にみられる粘質で斑紋のない強グライ土壤である。

## 代表断面

地点番号: No 228

所在地: 田村郡西田町板橋石ノ鼻

地形地質: 谷底低地, 沖積層

標高: 280m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式: 非固結水成岩, 水積

土地利用: 水田

## 断面形態

第1層 0~13cm

腐植をふくむ暗緑灰色 (7.5GY4/1) CL, 可塑性強, 粘着性中, 層界平坦判然。

第2層 13~25cm

暗オリーブ灰色 (5GY4/1) Lic, 可塑性強, 粘着性強, 層界平坦漸変。

第3層 25cm~

暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) CL, 可塑性強, 粘着性中。

## 東浦統

本土壤統も主として阿武隈山地の新时期花崗岩地帯の谷底低地にあり, 粘着で斑紋をもつ強グライ土壤である。

## 代表断面

地点番号: No.231

所在地: 安達郡白沢町白崎

地形地質: 谷底低地, 沖積層

標高: 280m

傾斜: 平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～12cm

腐植をふくむ暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）SicL，膜状斑富む，ち密度5，可塑性度，粘着性強，層界平坦判然。

##### 第2層 12～19cm

オ暗リーブ灰色（5GY4/1）SicL，膜状斑ふくむ，ち密度10，可塑性強，粘着性強，層界平坦判然。

##### 第3層 19～40cm

暗緑灰色（7.5GY4/1）SicL，膜状斑ふくむ，ち密度11，可塑性強，粘着性強，層界平坦漸変。

##### 第4層 40cm～

暗オリーブ灰色（5GY4/1）SicL，ち密度13，可塑性強，粘着性強。

#### 芝井統

本土壌統は主として阿武隈山地の新时期花崗岩地帯の谷底低地にある壤質の強グライ土壌である。

#### 代表断面

地点番号：No. 139

所在地：田村郡三春町鷹巣

地形地質：谷底低地，沖積層

標高：360m

傾斜：平坦

母材および堆積様式：非固結水成岩，水積

土地利用：水田

#### 断面形態

##### 第1層 0～18cm

腐植をふくむ暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）CL，斑紋ふくむ，可塑性強，粘着性中，層界平坦漸変。

### 第2層 18～30cm

オリーブ黒色 (7.5GY3/1) SL, 細半角礫に富む, 可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦漸変。

### 第3層 30～70cm

オリーブ黒色 (5GY2/1) SL, 可塑性中, 粘着性弱, 層界平坦漸変。

### 第4層 70cm～

暗緑灰 (5G4/1) CoSL, 可塑性弱, 粘着性弱。

## II. 土壌分類と土地利用

### II. 1. 山地, 丘陵地域の土地利用

調査地域における各土壌統ごとの地形, 土壌の特徴および分布, 土地利用の状況などについては前述したとおりであるが, ここでは林業的立場からの土地利用について総括的に述べてみたい。

1. 褐色森林土壌 赤坂1統, 同2統および熱海1統, 同2統がこれに属し, 図幅西側の山地および山地性地形に分布している。この土壌の分布地域は地形の開析が進み, 壮年期の地貌を呈し, 林業立地としてもつとも好適な条件を具備している。第三紀層の各岩種および安山岩類から構成されるが, 土壌は母材よりも地形条件に支配され, 残積性(赤坂1統, 熱海1統)と崩積性(赤坂2統, 熱海2統)に細別される。残積性土壌は峯部や斜面上部に位置しているために, 表層浸食をうけ, 腐植土層の発達は貧弱である。また, 土壌の理化学性は良好ではないから, アカマツ林あるいはコナラを主とする広葉樹林を育成するのが適当である。地形が急峻であるから, 森林の取扱いを適正にし, 崩壊については, とくに留意しなければならない。崩積性土壌には良好なスギの生育が期待されるから, 積極的にスギの植栽をはかるべきである。

2. 褐色森林土壌(黄褐色型) 阿武隈山地に分布する三春1統, 同2統, 同3統, 鶴石1統, 同2統, 金沢統, 図幅西側の河内1統, 同2統, および阿武隈川沿の小川1統, 同2統がこれに属し, 調査地域の大部分を占めている。平坦台地に分布する小川1統, 同2統のほかは, いずれも起伏のなだらかな丘陵地形を占めている。

阿武隈山地に分布するものには, 結晶片岩や石英安山岩質凝灰岩に由来する土壌も

あるが、ほとんど大部分のものが深層風化をうけた花崗岩類を母材としている。老年期のなだらかな地形からなるために、普通畑や桑畑が多く、畑地と森林が交錯して分布している。

森林がまとまった分布を示しているのは、山地性地貌を呈し、三春2統の分布割合が大きい国見山周辺である。三春町、白沢村の三春1統、同3統では畑地として利用されているところが多く、とくに農業構造改善事業として桑畑の造成が促進されているから、今後、農地としての利用が高まるであろう。林業的には農業立地として不利な三春2統、および三春1統の残部が利用の対象となるものと考えられる。三春1統にはアカマツ林の造成が適当であり、天然更新も期待できる。三春2統は理化学性が良好であるからスギの植栽に適している。とくに、国見山を中心とする地域には積極的にスギを植栽したい。金沢統および鶴石1統は三春1統と同様にアカマツ林およびコナラを主とする広葉樹林の育成に適しており、崩積性の鶴見2統にはスギを植特するのが適当である。三春1統を基盤整備によつて畑地に転換する場合には表層浸食、崩壊について、とくに留意する必要がある。

図幅西部の河内1統、同2統は比較的山地性の地貌を呈し、林業立地として好条件をそなえている。褐色森林土の場合と同様の方法により、森林を造成するのが有利である。

花崗岩母材からなる洪積台地の小川1統、同2統は大部分畑地として利用され、日和田付近では開田が進められている。この土壌は林業よりも農業として利用、開発されるものと考えられる。

3. 褐色森林土壌(灰黄型) 図幅西部の丘陵地に分布する山寺1統、同2統および日和田北方の台地に分布する日和田統がこれに属している。山寺1統、同2統は現在、森林として利用され、林業立地として好適な条件をそなえているから、褐色森林土の各土壌統や河内1統、同2統と同様の方法で森林を造成していきたい。山寺1統、同2統は理化学性は良好ではないが、化学性が良好であり、崩積性の山寺2統には良好なスギ人工林が成立している。峯地形に分布する山寺1統には林相の粗悪な広葉樹林が多いから、アカマツ林がコナラを主とする広葉樹林に誘導、育成する必要がある。

日和田統は台地地形からなり、畑地としての利用も多いが、生育の良好なアカマツ



天然生林が分布している。林地として利用する場合にはアカマツ林の育成が適当である。この土壤は下層にわずかながら停滞水の影響が認められるが、林業的には問題ではない。

4. 未熟褐色森林土壤（黄褐色型） 図幅北部の石英粗面岩地帯に分布する矢沢1統，同2統がこれに属している。鈍頂峯部と凸型急斜面からなり，急斜地には基岩が露出したり，露岩が屹立したりしている。林相の粗悪なアカマツ，コナラ，クリ林からなり，生育状態は良好ではない。残積性の矢沢1統にはアカマツ林の造成が期待されるが，崩積性の矢沢2統は礫土で，スギの造林にも適当ではない。埴質，重粘で保水力が大きく，急斜地が多いために，地這り崩壊がおこりやすく，崩壁地が散見される。この土壤では崩壊地の復旧がきわめて困難であるから，森林施業をとおして，急斜地の保全には格別の注意が必要である。

5. 未熟褐色森林土壤（暗褐色型） 日和田北部の角閃片岩からなる丘陵地に分布する高倉1統，同2統がこれに属している。凸地形にあらわれる高倉1統ではアカマツの生育は良好であり，また凹地形の高倉2統には生育中庸なスギの造林地がみられる。この土壤では，局所的凹地にスギの植栽が期待されるほかは，大部分，アカマツの育成に適している。

6. 赤黄色土壤 洪積層を母材とする大谷統および凝灰質砂岩を母材とする片平統がこれに属している。この土壤では平坦面が広く発達し，台地に近い地貌を呈しているために，台地として利用されているところがかかなり多い。大谷統は火山灰質ローム状の土壤で，化学性は比較的良好であり，今後とも農地としての利用が促進されるかもしれないが，アカマツ林の造成にはもつとも適当した土壤である。片平統は地形的にみて，農地として利用するには大谷統よりも不利であり，また土壤の性質も劣っている。アカマツの生育も大谷統よりは劣るが，その育成は容易である。地形条件は良好であるが，スギの植栽には適当ではない。

7. 赤色土壤 赤色風化殻を母材とする白沢統がこれに属し，土壤条件は良好ではない。図幅内ではきわめて小面積に分布しているだけであるから，土地利用上あまり問題とはならないが，この土壤を畑地として利用する場合には化学性の改良が必要であるし，また林地として利用する場合には生育中庸なアカマツ林の造成が期待される。

## II. 2 台地、低地地域の土地利用

本台地、低地地域の農業は水田単作を主体としている。畑作（むぎ・いも・野菜類）は笹原川以南の台地、五百川と逢浜川との間にある台地の黄褐色土壌（安積統、郡山統）、阿武隈川沖積地の黄褐色土壌（福室統、四郎丸統、荒浜統）、南川流域の台地にある黒色土壌（大槻統）、などでおこなわれているが、その一部は果樹園、桑園、平地林としても利用されている。また阿武隈川沿岸では最近工場建設用地への転用が顕著である。

水稲栽種の灌漑水源としては、阿武隈川およびその支流の五百川、藤田川、逢瀬川、南川、笹原川などであるが、一方明治初年以來安積疎水事業により猪苗代湖の湖水が灌漑用水として利用され、台地上に広く水田の開発が進められてきた。安積疎水事業は最近さらに拡大され、灌漑用水の確保は一層強化されている。

水稲の収量は10 a 当り 360~600kg の範囲にあるが、阿武隈山地の山間にある強グライ土壌の一部を除けば10 a 当り 48kg 以上のものが多い。

なお土壌統群別に主要な問題点をあげると次の通りである。

### 黒 色 土 壌

逢瀬川と南川との間にある中位段丘にみられる、篠永統は、いわゆる腐植質火山灰土壌の通性として軽しう、塩基不飽和性、きわめて大きな燐酸固定力など特殊な理化学をもっている故、石灰、腐熟堆肥の施用、燐酸肥料の増施など肥域管理に格別の留意をする必要がある。

### 黄 褐 色 土 壌

北多久統は強粘質な洪積層を母材とした土壌であり、最近の新規開田は主としてこの土壌の分布する地帯で実施されている。土性が強粘質なため、利水上には問題ないと考えられるが、表層に腐植が少ないため多量の腐熟堆肥の施用を必要としている。

### 灰 褐 色 土 壌

南川以南の逢瀬統の分布する地帯は東西に走る幾筋かの旧河道があり、下層・（1 m前後以下）の土性がきわめて不均一である。それ故、基盤整備などによる区画整理を実施するにあたっては、下層土の土性に注意しないと砂層あるいは礫層が表面に露出するおそれがある。

### 灰 色 土 壤

これらの土壌は本図幅内において最も安定した高い収量（10当り 540～600kg）をあげている。喜久田統，早稲統は広い平坦地に分布し，農業立地上有利な条件にあるが，強粘質な白色粘土を母材とするため，落水後の作土層は強グライ反応を呈する。それ故に，大型機械の導入には支障をきたすおそれがあり，また気象条件によつては田植時に苗の活着が不良になることが想定されるので作土の排水に留意する必要がある。

### グ ラ イ 土 壤

この土壌は主として台地上の凹地に分布しており，きわめて小面積である。この土壌も強粘質な洪積質を母材としているため，作土が強グライ反応を呈する。台地と凹途との境界に排水溝を設定するなど排水に留意すれば，粘質灰色土壌となり，収量の増加することが期待される。

### 強グライ土壌

壤主として阿武隈山途の各底低地に分布し，農業立地条件はきわめて劣悪である。ただし白沢村宮の下では基盤整備によりかつての強グライ土壌が下層土がグライ色を呈しながら， $\alpha\alpha'$ -ジピルジール反応を示さない灰色土壌に移行している実例がみられた。それ故に，強グライ土壌でもこのような土地改良事業の実施により収量の増加が期待されよう。

### 謝 辞

本調査の遂行にあたり，貴重な既往の調査原票活用のほか，種々な便宜を与えられた福島県農業試験場ならびに，現地調査に御協力頂いた郡山市役所国土調査係，および支所の方々本宮町役場，白沢村役場，三春町役場の関係各位に厚く御礼申し上げます。

## Ⅲ． 資 料

- 1) 仙台管区气象台：東北地方の気候（1951）
- 2) 林野庁，林業試験場：国有林野土壌調査方法書（1955）
- 3) 半沢正四郎：日本地方地質誌，東北地方（1954）
- 4) 三春町役場：町勢要覧，和和40年度版（1965）

- 5) 福島県農地林務部：適地適木調査資料，福島県の林野土壤（1967）
- 6) 福島県商工労働部開発課：二十万分の一福島県地質図同説明書（1962）
- 7) （1953）
- 8) Wako, Geomorphological Surfaces in the Koriyama Basin, Fukushima Prefecture Institute of Geography, Faculty of Science Tohoku University Sendai, Japan March, 1963
- 9) 安積疎水大規模土地改良事業計画一般平面図（1/5万）
- 10) 福島県土壤図：福島県農業試験場  
須賀川市 岩瀬郡 昭和40年3月  
安達郡 二本松市 昭和41年3月  
郡山市 昭和41年3月
- 11) 福島県農業試験場：昭和41年度地力保全基本調査成績書 阿武隈山系北部（Ⅱ）及び中部地区（Ⅰ）（水田）
- 12) 福島県農業試験場：昭和41年度地力保全調査事業成績抄録。
- 13) 農林水産技術会議：水田土壤適性分級法試案 昭和39年3月
- 14) 農林省農業技術研究所化学部土壤第3科：水田土壤統設定（第1次案）昭和38年12月，同補遺3，昭和41年2月
- 15) 農林省農業技術研究所化学部土壤第3科：水田試験圃場，断面形態，理化学分析および土壤統分類，昭和42年
- 16) 農林省農林水産技術会議事務局監修 日本色彩研究所 色票監修 新版標準土色帖 昭和42年

## Soil Survey "KÖRIYAMA"

### (Summary)

The soil survey of this area was made on the Soil Survey Standard Regulation, Fundamental Land Classification, National Land Survey Law. The area is divided preliminarily into (1) mountainous and hilly region and (2) upland and lowland region. Soil survey of the region of (1) was carried out by the members of Tohoku Branch of Government Forest Experiment Station, Morioka, and of (2) by the members of National Institute of Agricultural Sciences, Tokyo, in 1967.

Then on each region, soils were classified into soil series based on the profile characteristics, parent materials, and modes of sedimentation as in Soil Survey Standard Regulation.

1. Soils mostly found in mountainous and hilly regions.

The Soils found in this area classified into following 7 soil groups and 24 soil series.

(1) **Brown forest soils**

These soil are found in mountainous regions consist of steep slopes and narrow ridges. The development of humus-rich layer is generally poor by the influence of surface erosion. The following soil series belong in this soil group: Akasaka 1(As-1) and Akasaka 2(As-2) series derived from sandstone of Tertiary, Atami 1 (At-1) and Atami 2 (At-2) series derived from Tertiary sediments and andesites. As-1, At-1 series are composed of dried, acid residual soils, As-2, At-2 series are composed of colluvial soils with suitable soil properties.

(2) **Brown forest soils (Yellowish brown type)**

These soils are found in hilly land and Diluvial terrace. In those, the infiltration of humus is generally poor, and yellowish brown color (Munsell's 7.5YR-10YR) is predominant in profiles.

These soils are widely distributed in the area surveyed. The following soil series belong in this soil group : Miharu 1 (Mi-1), Miharu 2 (Mi-2) and Miharu 3 (Mi-3) series derived from deeply weathered granite materials, Tsuruishi 1 (Ti-1) and Tsuruishi 2 (Ti-2) series derived from crystalline schist, Kanazawa (Ka) series derived from quartz-andesitic tuff, Kōzu 1 (Ko-1) and Kōzu 2 (Ko-2) series derived from sandstone of Tertiary, and Ogawa 1 (Og-1) and Ogawa 2 (Og-2) series derived from granite materials of Diluvium. Mi-1, Mi-3, Ti-1, Ka, Ko-1, and Og-1 series are composed of residual soils, and Mi-2, Ti-2, Ko-2 and Og-2 series are composed of colluvial soils. The soil properties of residual soils are generally poor than those of colluvial soils.

**(3) Brown forest soils (Grayish yellow type)**

These soils are grayish yellow brown (Munsell's 10YR) colored, developed on hills and terrace. The lower layers of those are comparatively reductive, and weak rusty mottlings are apparent. The following soil series belong in this soil group : Yamadera 1 (Yd-1) and Yamadera 2 (Yd-2) series derived from tuff of Tertiary, Hiwada (Hi) series derived from clay deposit of Diluvium. Yd-1 and Hi series are composed of weakly dried residual soils, and Yd-2 series are composed of colluvial soils.

**(4) Immature brown forest soils (Yellowish brown type)**

These soils have distributed on mountainous regions. Their parent materials are originated from liparite. Those are light yellowish brown (Munsell's 10YR) colored, originated from weathering of parent materials, and differentiation of B horizons are not enough. Yazawa 1 (Ya-1) composed of residual soils and Yazawa 2 (Ya-2) composed of colluvial soils belong in this soil group. The soil properties of this group are generally poor,

and clayey, swelling weathered materials are easily produced landslips.

#### (5) Immature brown forest soils (Dark brown type)

These soils are found on hilly regions, composed of amphiboleschist. In profiles of those, dark brown color (Munsell's 10 YR) originated from weathered parent materials are dominant, and differentiation of soil horizons are incomplete. Takakura 1 (Ta-1) series composed of residual soils and Takakura 2 (Ta-2) series composed of colluvial soils belong in this soil group. The chemical properties of these soils are generally fine.

#### (6) Reddish yellow soils

These soils are found in hilly regions. Those are reddish brown or orange (Munsell's 7.5YR-5YR) colored, developed on deposit of Diluvium and sandstone of Tertiary. Ôya (Oy) and clay Katahira (Kt) series, composed of residual soils, belong in this soil group. Oy series are rich in tuffaceous materials, and chemical properties of those are rather fine than those of Kt series.

#### (7) Red soils

These soils have developed on hills, composed of deeply weathered granites. In profiles of those, light brown color (Munsell's 2.5YR) or reddish orange color (Munsell's 10R), originated from red weathered materials are characteristic.

Shirasawa (Shi) series, composed of residual soils, belong in this soil group, and soil properties of those are poor.

1. Soils found in upland and lowland region.

The soils of this area are divided in the following 6 groups and 27 soil series.

#### (1) Yellowish brown soils

Nearly all horizons of these soils are yellowish brown. Both very clayey Asaka series and clayey Kôriyama series develop on the upper terrace, and are used as upland crop fields.

Kitataku series also develop on the upper terrace, and are very clayey and have manganese concretions in the profile, and are used as paddy fields.

Himi series develop on the middle and lower terrace, and are loamy and contains semi-angular gravels in the lower horizons and are used as paddy fields.

The soils on the natural levee of river Abukuma are divided into 3 series : clayey Fukumuro, loamy Shiromaru and sandy Arahama, and they are used as paddy fields.

## (2) **Black soils**

These soils develop from volcanic ash redeposited by river on the middle terrace, and the upper parts or all the parts of their profile show black or dark brown color, and enriched in humus. In the profile are found neither peaty layer nor mucky layer. They are divided into 2 soils series : Otsuki and Shinonaga.

Otsuki series have thicker layer of volcanic ash and are used as upland crop fields. Shinonaga series have thin layer of volcanic ash and are at about 50cm depth underlain by yellowish brown or gray clay layer and used as paddy fields.

## (3) **Grayish brown soils**

The main parts of these soils develop on the middle and lower terrace, and their parent materials are strongly influenced by the deposits derived from Tertiary layer, They are divided into 2 series : Mihota and Ōse, the former is very clayey and has manganese concretions in the profile, and the latter clayey, Other three series develop in the alluvial plains along the small rivers : loamy Yasuki, loamy Zentsuji with manganese concretions in the profile and very clayey Morohashi, Grayish brown soils are all used as paddy fields.

## (4) **Gray soils**

The main series of these soils are Wasehara and Kikuta series, and the former is very clayey and has manganese



concretions in the profile and widely develops the eastern partes of upper terrace northern from river Fujita, on the middle terraces in the right side along upper stream of river Gohyaku and in the left side along the middle stream of river Ōse. and the latter is also very clayery and develops on the middle terraces northern from river Gohyaku and southern from river Fujita.

Fujishiro series have clayey texture, and develop in the alluvial plains along lower stream of river Gohyaku and river Ōse, and in the valley bottom lowland of abukuma mountains.

Takarada series have clayey texture and manganese concretions in the profile, and develop on the middle terrace northern from river Gohyaku.

Kamo series occupy small area in the valley bottom lowland of Abukuma mountains.

#### (5) Gley soils

These soils are paddy soils characterized by the existence of gley horizons in the lower parts of profile without peaty, mucky and humic volcanic ash layers, and show sharp  $\alpha$ ,  $\alpha'$ -dipyridyl reaction.

In Kōriyama sheet there is only small area of gley soils.

Hokura and Chitose series develops on the middle and lower terrace of river Fujita, and the former has very clayey texture and the latter clayey.

Kawazoi series are very clayey paddy soils with manganese concretions, and develop on the relatively wide middle and lower terraces.

#### (6) Strong gley soils

These soils are very badly-drained paddy soils characterized by profile consisted of gley horizons showing sharp  $\alpha$ ,  $\alpha'$ -dipyridyl reaction, have not peaty, mucky and humic volcanic ash layers.

Fusoki series are very clayey paddy soils in the valley

bottom lowland of Abukuma mountains, developed from the weathering materials of old granite.

Higashiura series are clayey raddy soils with iron mottles in the valley bottom lowland of Abukuma mountains developed from the weathering materials of recent granite.

Nishiyama series are analogous paddz soils to Tōura series, but have no iron mottles.

Tagawa series develop river bed in the town mihota, and are very clayey paddy soils with iron Mottles.

Shibai series are loamy paddy soils.

## あ と が き

1. 本調査は経済企画庁が通産省地質調査所、農林省林業試験場、同省農業技術研究所に支出委任（地形調査のみ直轄依頼）して行なつたもので、その事業主体は、経済企画庁である。

2. 本調査成果は、国土調査法施行令第2・第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。

3. 調査にあたり、基準とした作業規程準則は下記のとおりである。

地形調査作業規程準則（昭和29年7月2日 総理府令第50号）

表層地質調査作業規程準則（昭和29年8月21日 総理府令第65号）

土じょう調査作業規程準則（昭和30年1月29日 総理府令第3号）

4. 調査の実施、成果の作成関係機関及び関係担当者は下記のとおりである。

## 総合企画

調整・編集 経済企画庁総合開発局 技官 山崎 寿雄

// 佐野 英男

// 中島 卓也

企画連絡 福島県農地林務部農林課 係長 木村 重太郎

主査 木舟 賢造

技師 永山 健三郎

// 佐藤 庄次郎

地形調査 東北大学理学部 文部教官 西村 嘉助

// 中村 嘉男

表層地質調査 通産省地質調査所 通産技官 蔵田 延男

東京教育大学理学部 文部教官 大森 昌衛

福島大学学芸学部 // 鈴木 敬治

土壌調査 農林省林業試験場東北支場 技官 山谷 孝一

// 西田 豊昭

// 仙石 鉄也

// 柳谷 清子

農林省農業技術研究所 技官 原田 竹 治  
 // 足立 嗣 雄  
 // 足立 美智子

協 力 前橋営林局郡山営林署  
 福島県 林業指導所  
 // 農業試験場  
 図幅内 関係市町村

(参考)

土地分類基本調査図幅 (既刊)

1. 国土調査法に基づくもの (昭和37年度まで)

水 沢 (岩手県), 湯殿山 (山形県), 前 橋 (群馬県), 宇都宮 (栃木県),  
 寄 居 (埼玉県), 鰻 沢 (山梨県), 四日市 (三重県), 津山西部 (岡山県),  
 熊 本 (熊本県), 鹿 屋 (鹿児島県)

2. 国土調査法および国土調査促進特別措置法に基づくもの

(昭和38年度から)

白 老 (北海道), 八 戸 (青森県), 仙 台 (宮城県), 秋 田 (秋田県), 郡  
 山 (福島県), 長 岡 (新潟県), 飯 田 (長野県), 長 浜 (岐阜県滋賀県),  
 磐田掛塚 (静岡県), 竜 野 (兵庫県), 米 子 (鳥取県・島根県), 西 条  
 (愛媛県), 高 知 (高知県), 佐 賀 (福岡県・佐賀県), 宇 佐 (大分県)

1968年3月印刷発行

土地分類基本調査

地形・表層地質・土じょう調査

## 郡 山

編集発行 経済企画庁総合開発局国土調査課  
印刷 北越文化興業株式会社  
東京都中央区日本橋兜町3-6  
電話 669-7141~5